

平成22年度(2)

県政モニター アンケート報告書

テーマ「これからの食育推進」

平成22年10月

も く じ

調査の概要	1
-------------	---

調査結果

1 食育への関心	3
2 バランスのとれた食事の実践	7
3 「おうちでごはんの日」の認知度	10
4 食品の安全性に関する知識	11
5 農林水産業に親しむ活動への参加	12
6 食育に関する情報の入手	14
7 食育に関する主体的な取組	19
8 今後の食育推進に必要な取組	23
9 自由意見	27

質問と回答	32
-------------	----

調査の概要

1 調査のテーマ

これからの食育推進

2 調査の趣旨

本県では、県民の皆様が主体的に食育に取り組む指針として、また、幅広い分野の関係者が連携・協力し、食育を総合的かつ計画的に推進するため、平成18年11月に「あいち食育いきいきプラン」を作成し、平成19年度からこのプランに基づき取組を実施してまいりました。

本年度はプランの目標年度となっておりますが、この間、県民の皆様の食育への関心は高まり、食育の大切さに対する理解も深まってきたものの、健全な食生活の実践となると、まだ十分とは言えない状況にあります。このため、こうした状況を踏まえた上で、次の食育推進プランを作成していく必要があります。

そこで、新しい「あいち食育いきいきプラン」を作成するにあたり、県民の皆様の食育に関する実態やご意向等を把握するため、「これからの食育推進」をテーマに県政モニターの皆様にご意見をお聞きしました。

3 調査対象

県政モニター 497人 (平成22年7月20日現在)

内訳

区 分	計		名古屋地域	尾張地域	三河地域	
	人 員	構 成 比				
総 数	497人	100.0%	153人	187人	157人	
性 別	男 性	240	48.3	78	89	73
	女 性	257	51.7	75	98	84
年 代 別	20 代	78	15.7	25	28	25
	30 代	106	21.3	31	42	33
	40 代	92	18.5	29	35	28
	50 代	81	16.3	23	32	26
	60 代 以上	140	28.2	45	50	45

4 調査期間

平成22年7月2日から平成22年7月20日まで

5 調査方法

郵送・インターネット（選択）

6 回答者数

483人（回収率97.1%）

【記号・符号・用語の説明】

- (1) N (Number of Cases の略) は比例算出の基数であり、100%が何人の回答者に相当するかを示す。
- (2) M. T. (Multiple Total) は複数回答を認める質問に対する回答の比率の合計を示す。(無回答者の数値は含まない。)
- (3) 回答が1つの質問であっても、小数第2位を四捨五入して割合を求めているため、合計が100%にならないことがある。

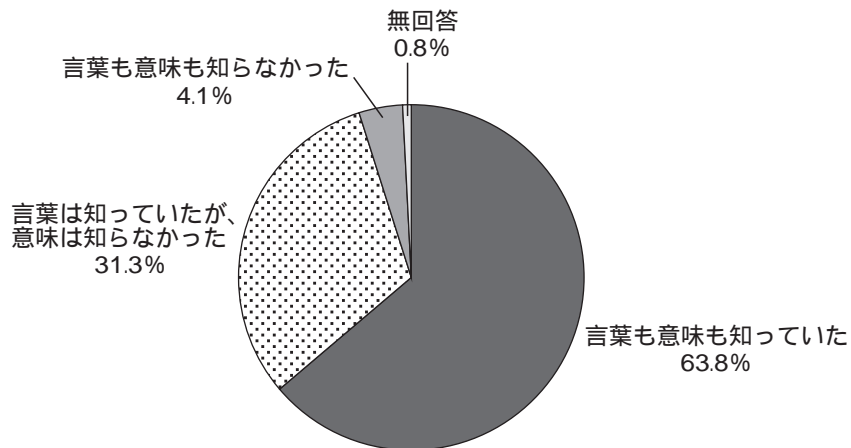
調査結果

1 食育への関心

問1 あなたは、「食育」という言葉やその意味を知っていましたか。(回答は1つ)

「食育」は、心身の健康の増進と豊かな人間形成のために、食に関する知識や食を選択する力を身につけ、健全な食生活を実践することができる人間を育てることです。その中には、規則正しい食生活や栄養バランスのとれた食事などを実践したり、食を通じたコミュニケーションやマナー、あいさつなどの食に関する基礎を身につけたり、自然の恵みへの感謝や伝統的な食文化などへの理解を深めたりすることが含まれます。

N = 483

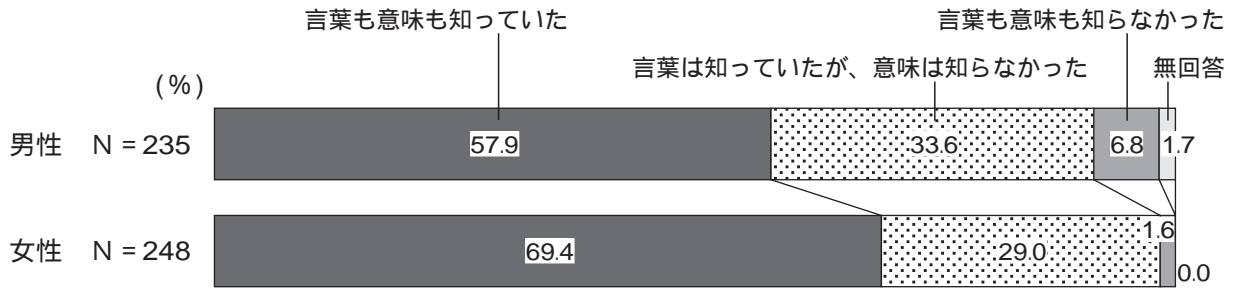


「食育」という言葉やその意味を知っていたか尋ねたところ、「言葉も意味も知っていた」が63.8%、「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」が31.3%、「言葉も意味も知らなかった」が4.1%となっている。

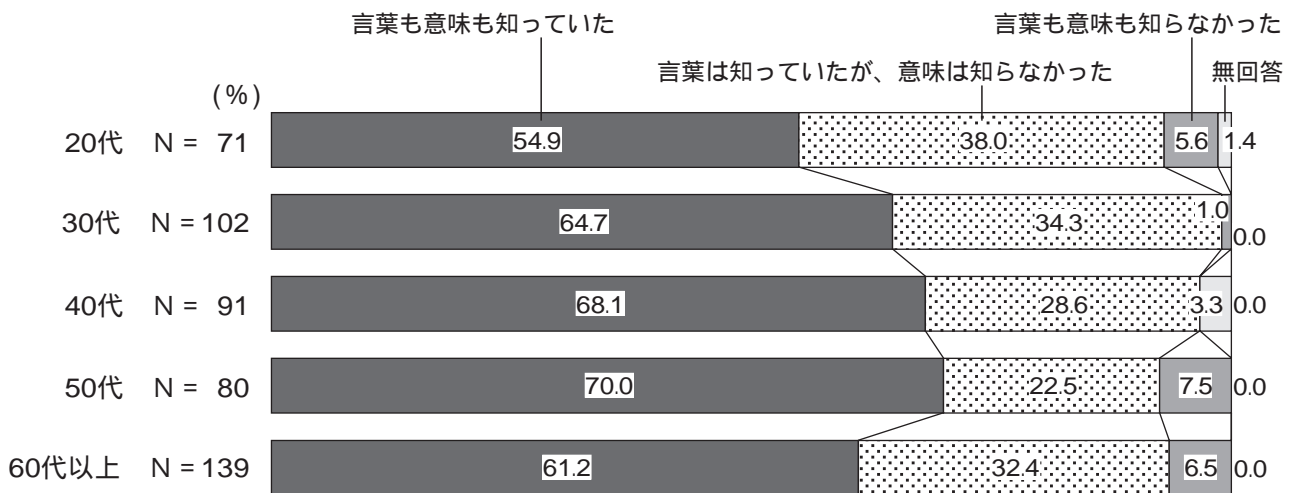
男女別にみると、「言葉も意味も知っていた」と答えた人の割合は、女性が男性より高くなっている。

年代別にみると、「言葉も意味も知っていた」と答えた人の割合は、50代以下では年代が上がるほど高くなっている。

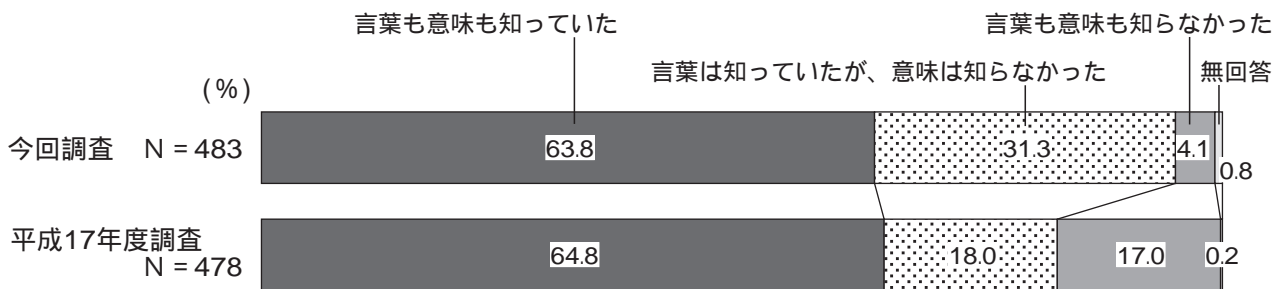
(男女別)



(年代別)

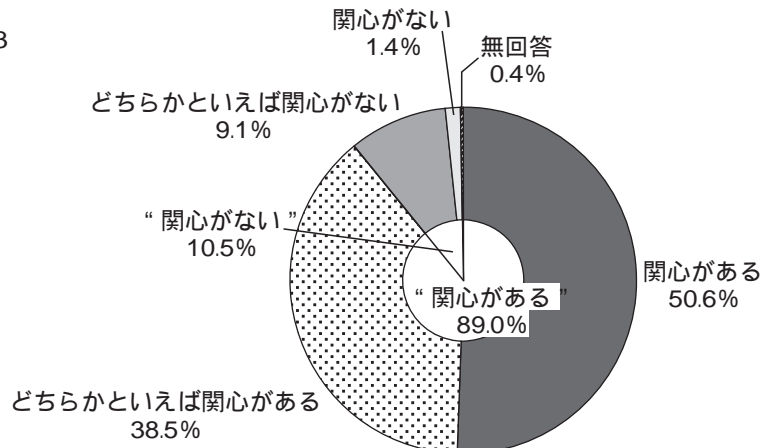


(食育への関心 (時系列比較))



問2 あなたは、「食育」に関心がありますか。(回答は1つ)

N = 483

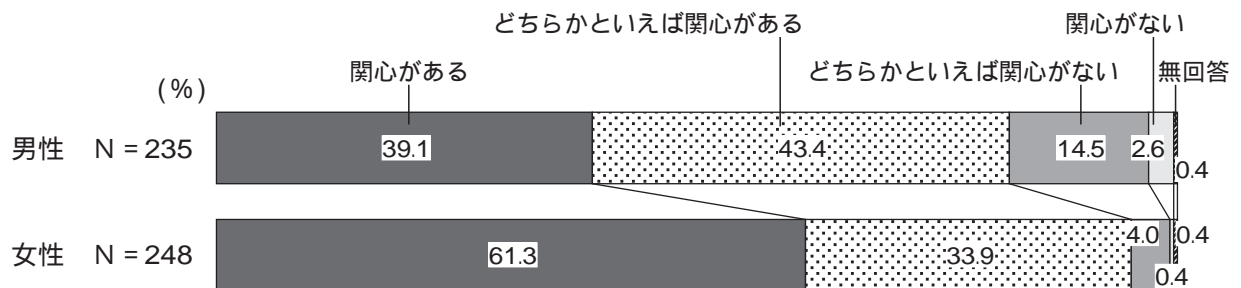


「食育」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」50.5%、「どちらかといえば関心がある」38.5%で、合わせた“関心がある”が89.0%に対し、「どちらかといえば関心がない」9.1%、「関心がない」1.4%で、合わせた“関心がない”が10.5%となっている。

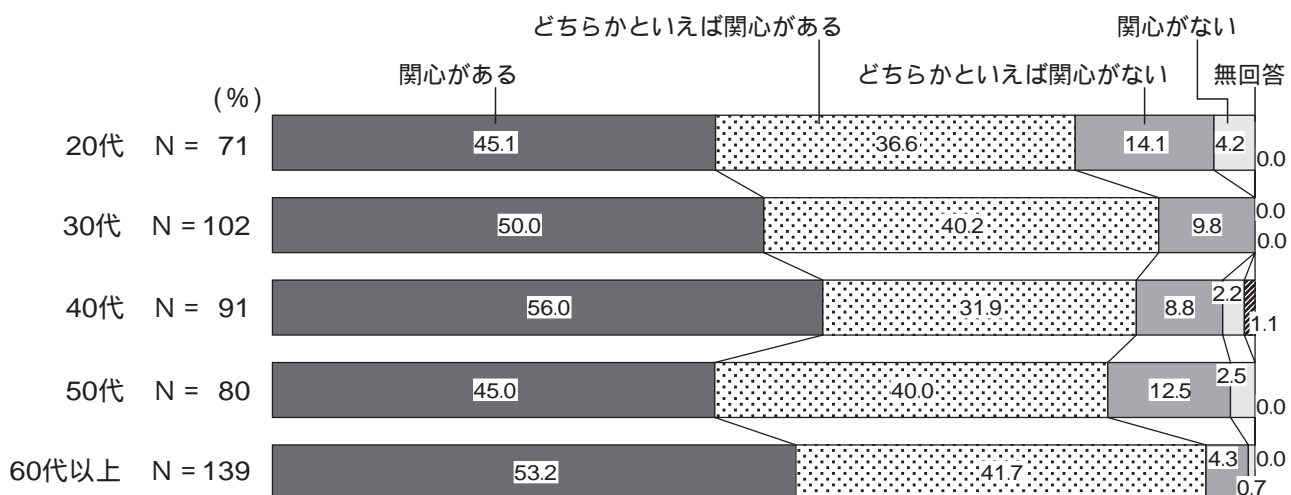
男女別にみると、“関心がある”と答えた人の割合は、女性が男性より高くなっている。

年代別にみると、“関心がある”と答えた人の割合は、20代でもっとも低く、60代以上で最も高くなっている。

(男女別)



(年代別)



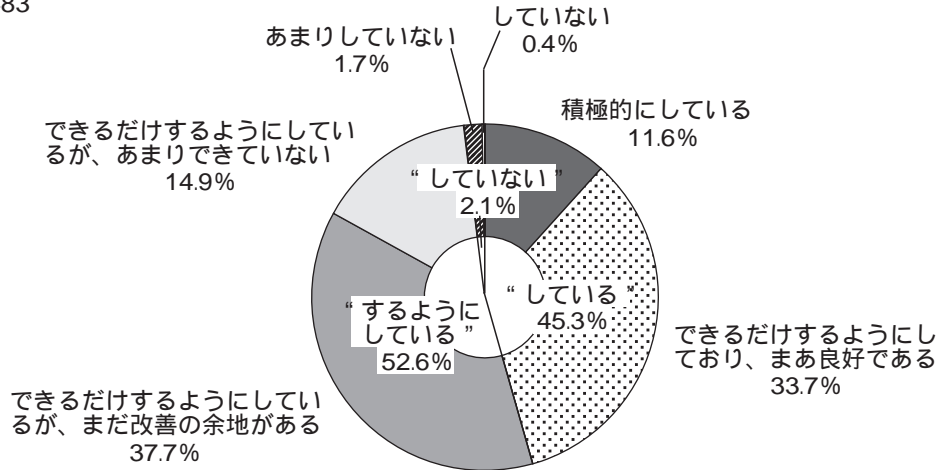
問1については平成17年度も同様の質問をしていますが、意味まで知っていた人は平成22年度とほぼ同数でした。しかし、言葉さえも知らなかった人の割合は13ポイント減少し、食育という言葉が定着したことがうかがえます。また、問2では90%近い方が食育への関心を持っているため、今後は実践につなげていくような取組が必要です。

(農林水産部食育推進課)

2 バランスのとれた食事の実践

問3 あなたは、栄養バランスのとれた食事をしていますか。(回答は1つ)

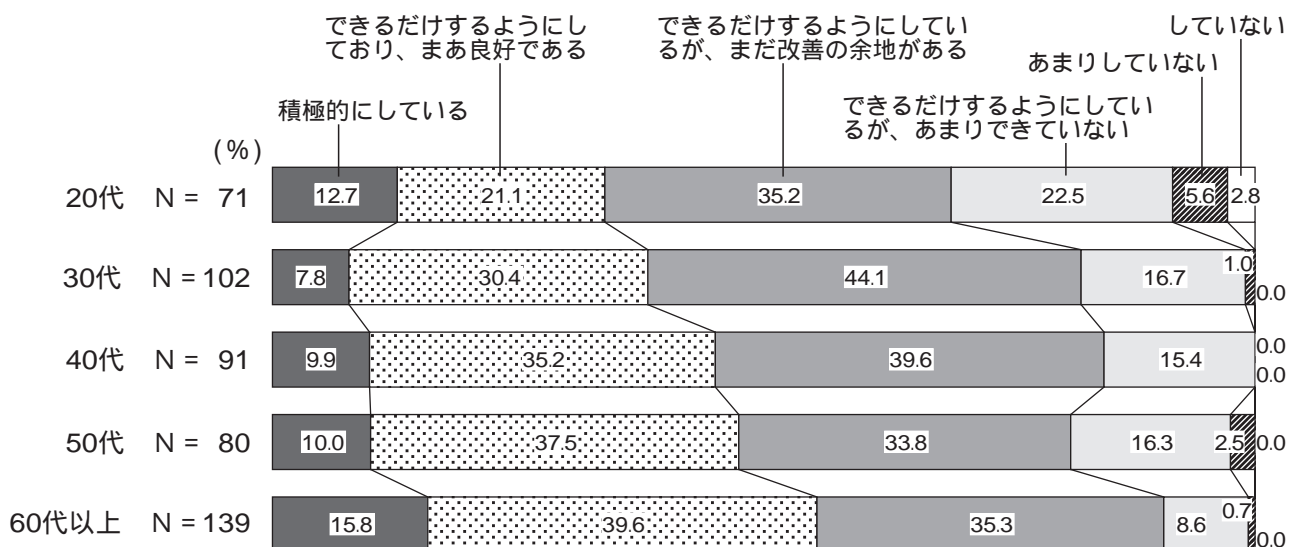
N = 483



栄養バランスのとれた食事をしているか尋ねたところ、「積極的にしている」11.6%、「できるだけするようにしており、まあ良好である」33.7%で、合わせた「している」が45.3%、「できるだけするようにしているが、まだ改善の余地がある」37.7%、「できるだけするようにしているが、あまりできていない」14.9%で、合わせた「するようにしている」が52.6%、「あまりしていない」1.7%、「していない」0.4%で、合わせた「していない」が2.1%となっている。

年代別にみると、「している」と答えた人の割合は、年代が上がるほど高くなっている。

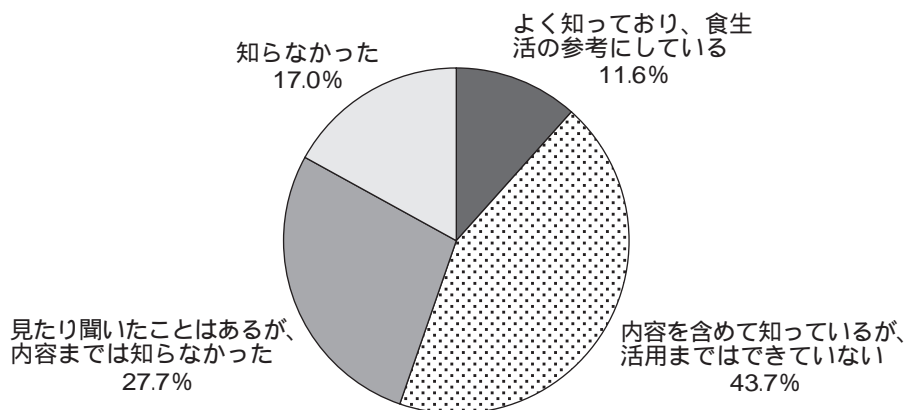
(年代別)



問4 あなたは、「食事バランスガイド」を知っていましたか。また、食生活の参考にしていますか。(回答は1つ)

「食事バランスガイド」は、1日に「何を」「どれだけ」食べたらよいかが目で見えるよう、食事の目安をコマ型のイラストで示したものです

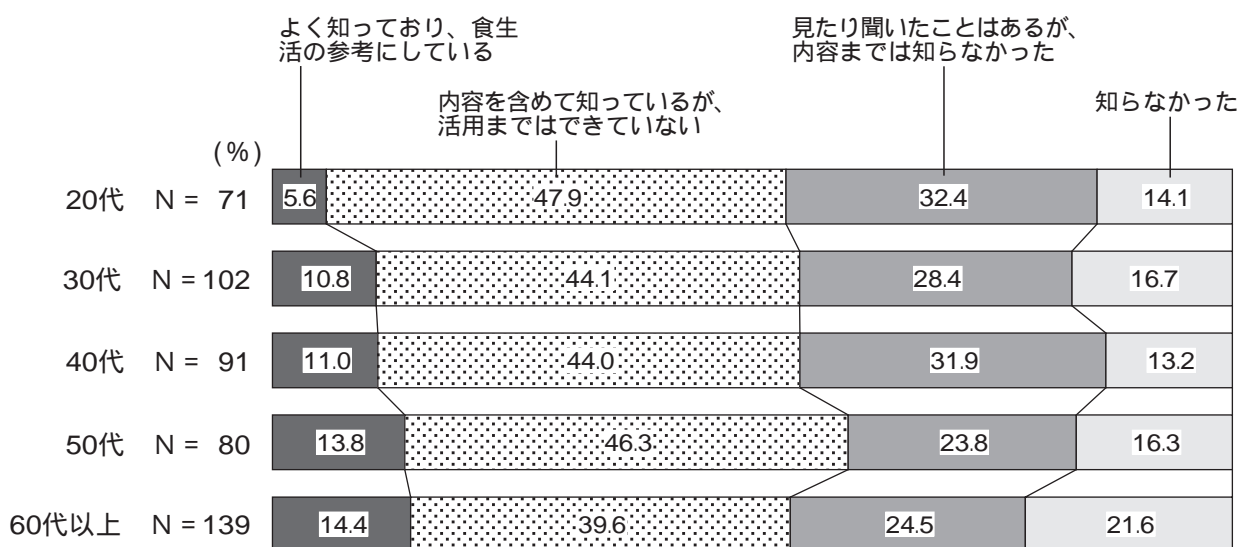
N = 483



「食事バランスガイド」の周知度と活用状況について尋ねたところ、「よく知っており、食生活の参考にしている」が11.6%、「内容を含めて知っているが、活用まではできていない」が43.7%、「見たり聞いたことはあるが、内容までは知らなかった」が27.7%、「知らなかった」が17.0%となっている。

年代別にみると、「よく知っており、食生活の参考にしている」と答えた人の割合は、年代が上がるほど高くなっている。

(年代別)



約98%の人がバランスのとれた食事を心がけていますが、そのうちの半数が実施について不十分だと感じているため、その理由を調査して実践につなげる必要があります。年齢的には若い世代ほど実施が不十分であると感じているため、世代ごとのライフスタイルとの関連が推測されます。

また、食事バランスガイドについては、内容を啓発するとともに活用に結びつける取組が必要です。

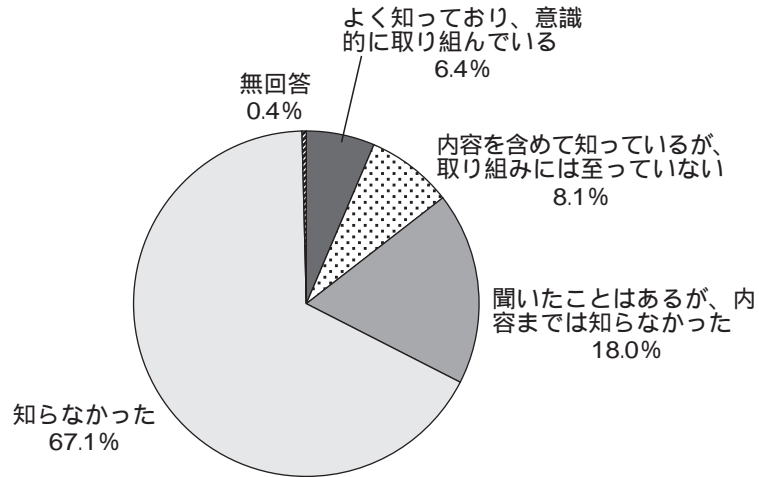
(農林水産部食育推進課)

3 「おうちでごはんの日」の認知度

問5 あなたは、「おうちでごはんの日」を知っていましたか。(回答は1つ)

愛知県では、「食育の日」である毎月19日を「おうちでごはんの日」として設定し、早めに帰宅し家族や友人たちと一緒に楽しく食卓を囲むことを勧めています。

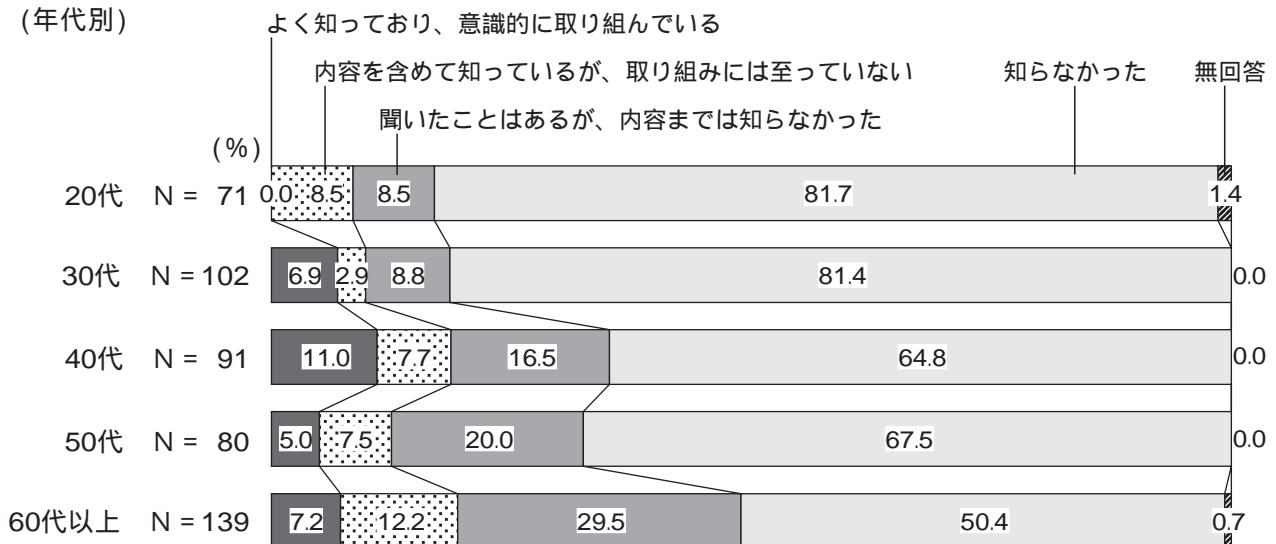
N = 483



「おうちでごはんの日」を知っているか尋ねたところ、「よく知っており、意識的に取り組んでいる」が6.4%、「内容を含めて知っているが、取り組みには至っていない」が8.1%、「聞いたことはあるが、内容までは知らなかった」が18.0%、「知らなかった」が67.1%となっている。

年代別にみると、「知らなかった」と答えた人の割合は、概ね年代が上がるほど低くなっている。

(年代別)



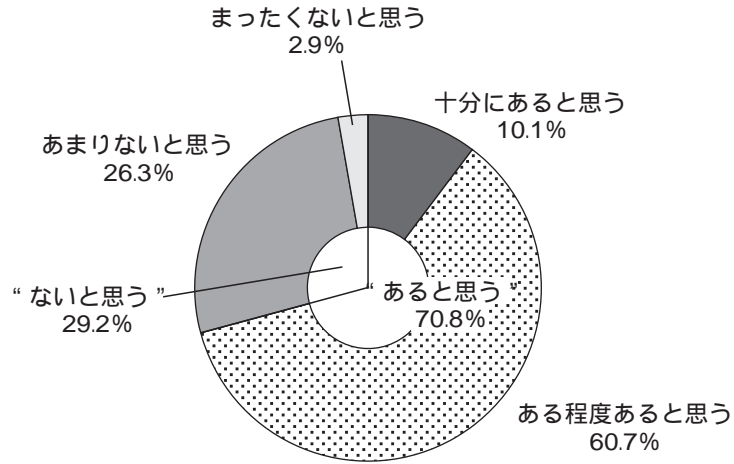
半数以上の人「おうちでごはんの日」を知らなかったため、啓発に努めるとともにワーク・ライフ・バランスの改善等、実践できるような環境整備が必要だと考えられます。

(農林水産部食育推進課)

4 食品の安全性に関する知識

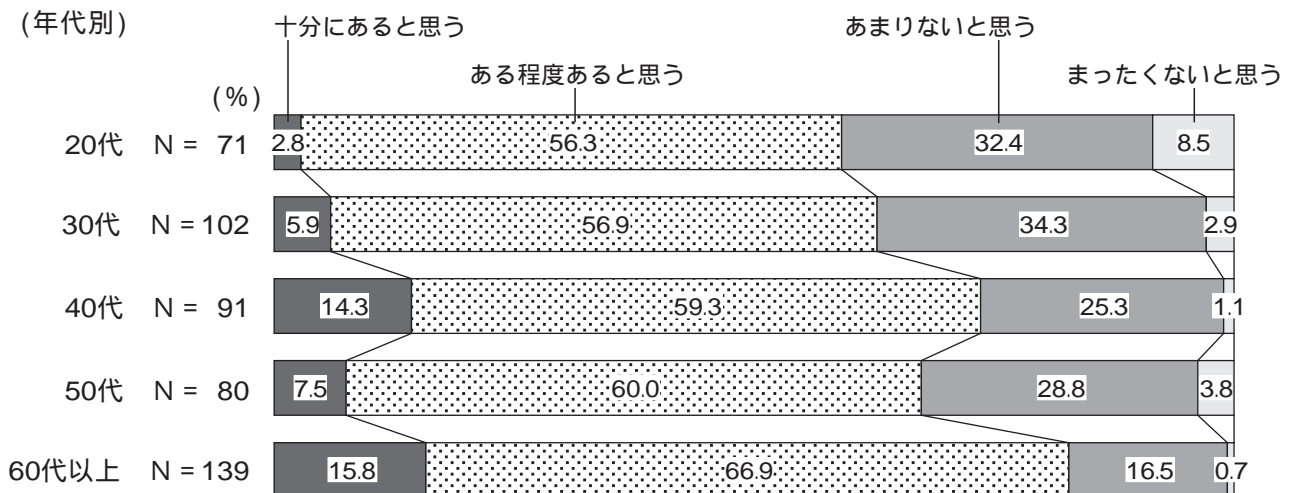
問6 あなたは、健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選んだ方がよいかや、どのような調理が必要かについての知識があると思いますか。(回答は1つ)

N = 483



健康に悪影響を与えないようにするための食品選択及び調理方法の知識の有無について尋ねたところ、「十分にあると思う」10.1%、「ある程度あると思う」60.7%で、合わせた「あると思う」が70.8%に対し、「あまりないと思う」26.3%、「まったくないと思う」2.9%で、合わせた「ないと思う」が29.2%となっている。

年代別にみると、「あると思う」と答えた人の割合は、概ね年代が上がるほど高くなっている。



3割近くの人が食品の選び方や調理法に対する知識がないと回答しています。誤った情報や風評に惑わされることのないよう、正しい知識の啓発と実践につなげるための取組が必要です。

(農林水産部食育推進課)

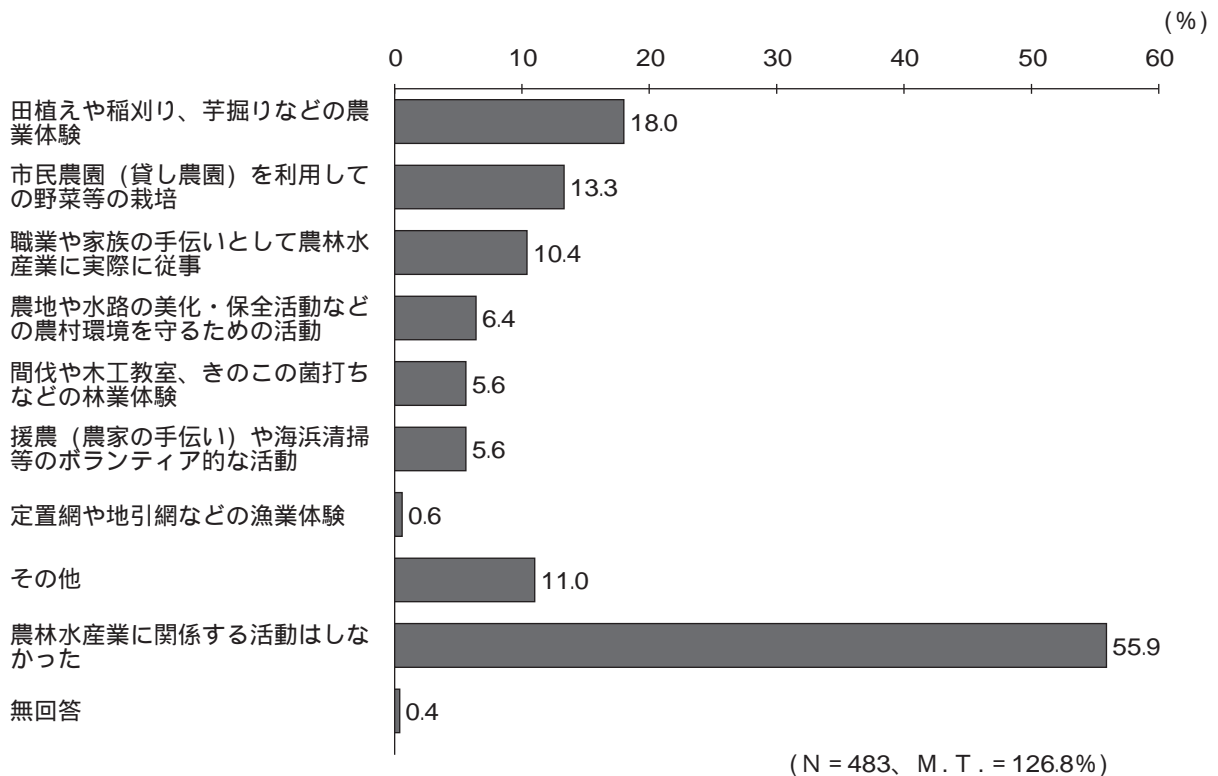
5 農林水産業に親しむ活動への参加

問7 食育を推進するには、食の大切さを理解したり、農林水産業の役割を知ることが必要です。

農林水産業の役割を理解するためには、日々の生活の中で農林水産業に関係する活動に取り組んだり、参加したりすることが望まれます。

あなたは、この1年の間に、農林水産業に関係する次のどんな活動をしましたか。

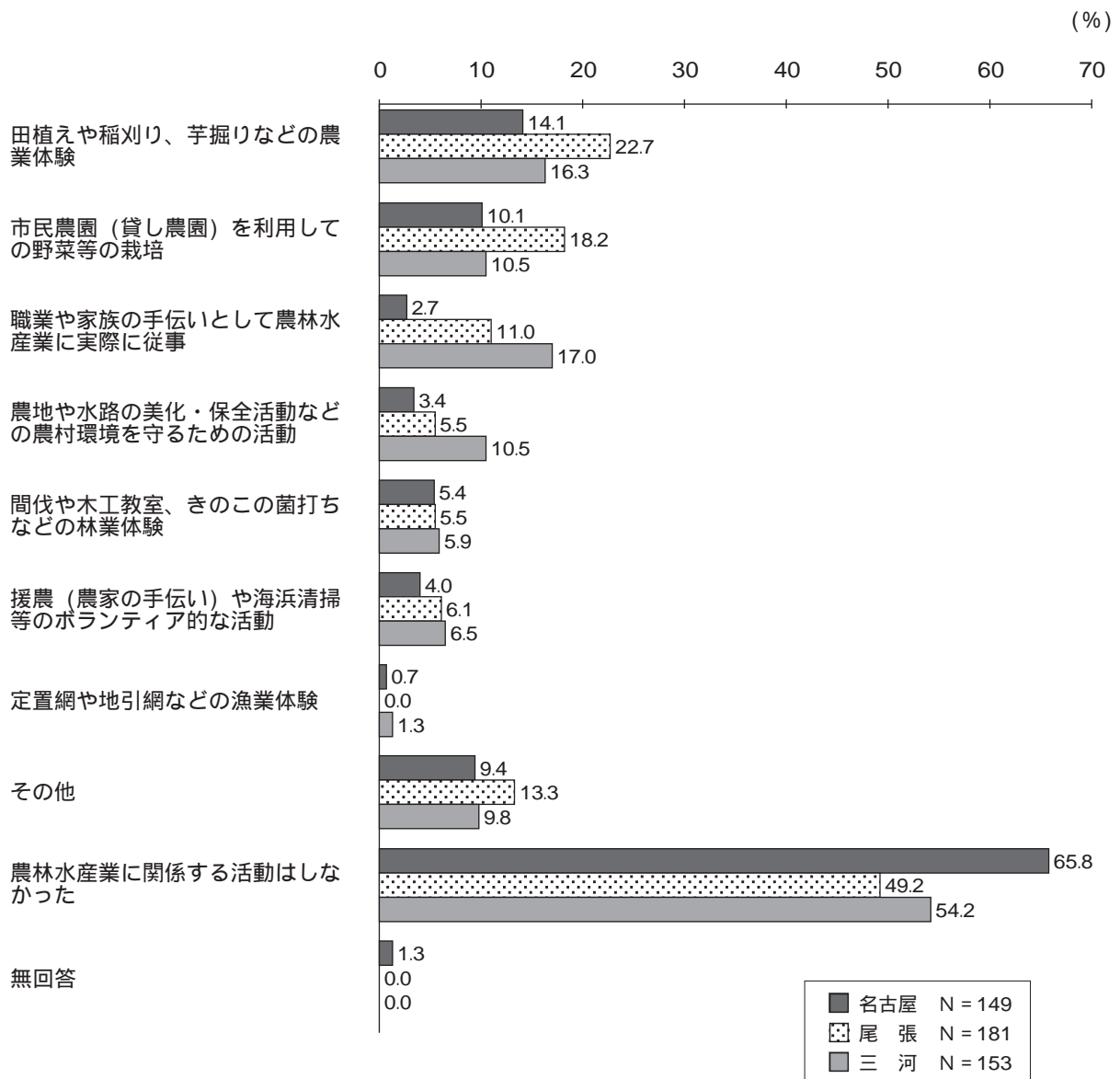
(回答はいくつでも)



この1年の間に、農林水産業に関係するどんな活動をしたか尋ねたところ、「田植えや稲刈り、芋掘りなどの農業体験」が18.0%、「市民農園（貸し農園）を利用したの野菜等の栽培」が13.3%、「職業や家族の手伝いとして農林水産業に実際に従事」が10.4%、「農地や水路の美化・保全活動などの農村環境を守るための活動」が6.4%などとなっている。一方で「農林水産業に関係する活動はしなかった」は55.9%となっている。

地域別にみると、名古屋地域と尾張地域では「田植えや稲刈り、芋掘りなどの農業体験」と答えた人の割合が最も高く、三河地域では「職業や家族の手伝いとして農林水産業に実際に従事」と答えた人の割合が最も高くなっている。

(地域別)

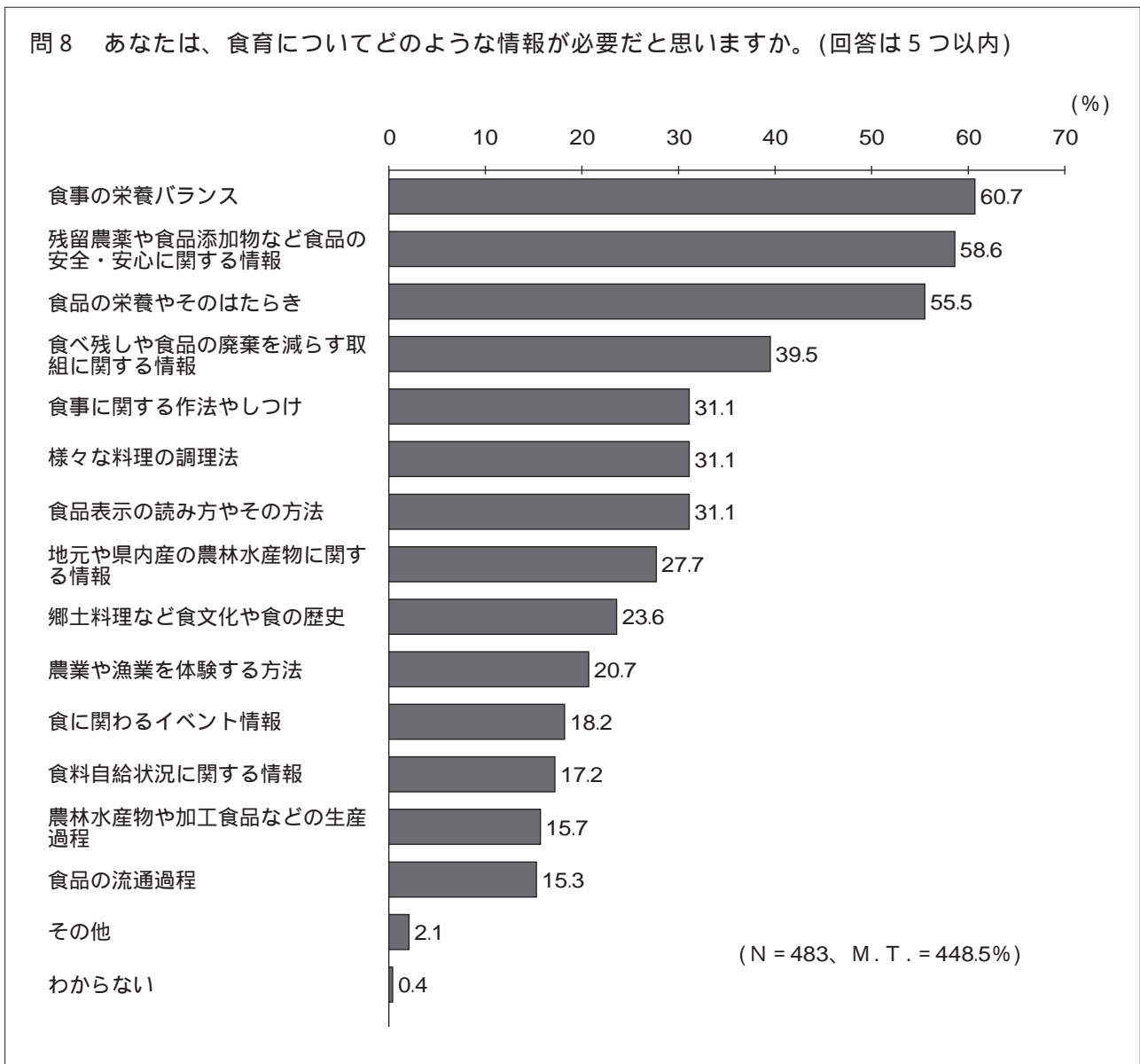


農業体験への参加と市民農園の利用を回答した方の割合が比較的高くなりました。また、「その他」では、家庭菜園やベランダでのプランター栽培などの取組を回答した方が多く見られました。

しかし、「農林水産業に関する活動はしなかった」と回答した方の割合が半分以上を占めていることから、今後も農林水産業に興味や関心を持っていただくための啓発や、実際に活動に参加していただくための機会づくりなどを進めていく必要があると考えています。

(農林水産部農林政策課)

6 食育に関する情報の入手

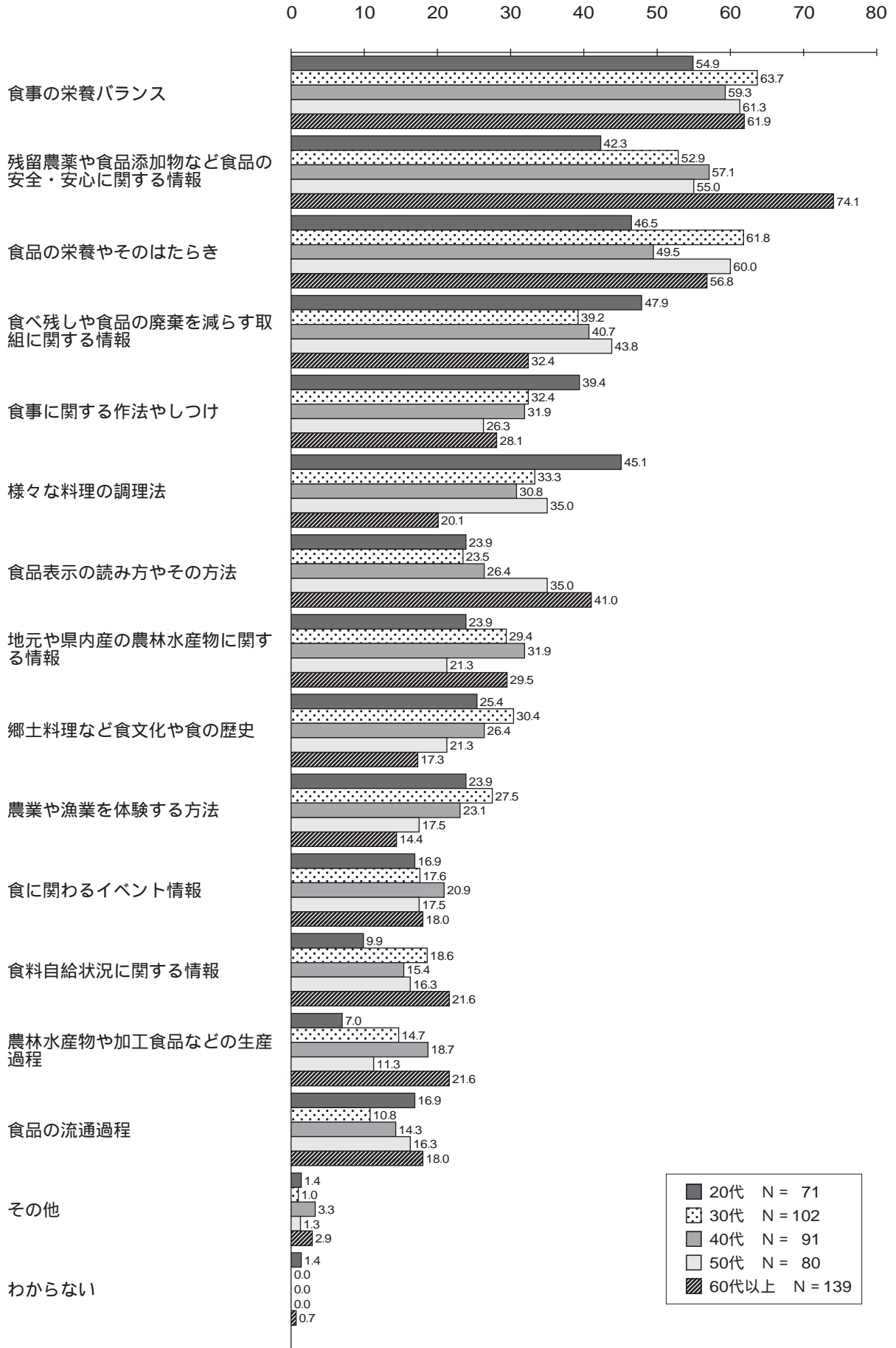


食育についてどのような情報が必要だと思うか尋ねたところ、「食事の栄養バランス」が60.7%、「残留農薬や食品添加物など食品の安全・安心に関する情報」が58.6%、「食品の栄養やそのはたらき」が55.5%、「食べ残しや食品の廃棄を減らす取組に関する情報」39.5%などとなっている。

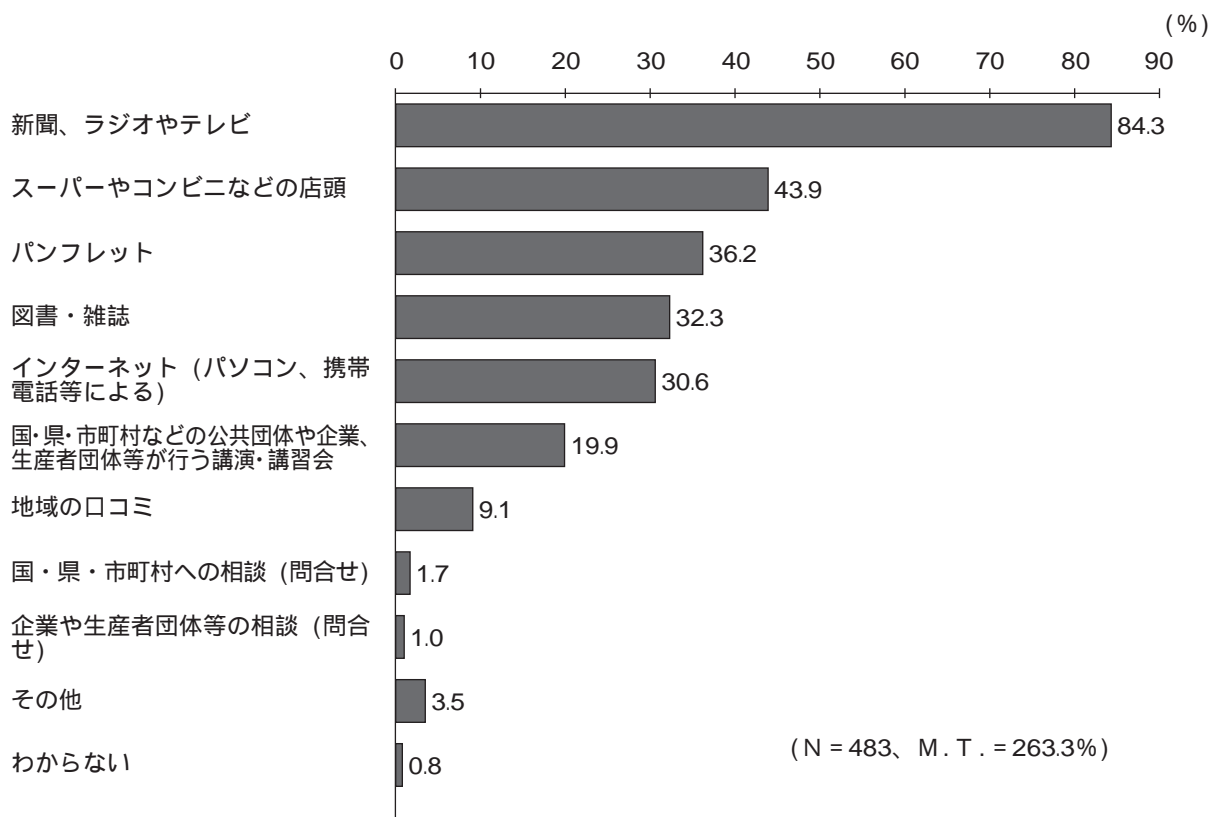
年代別にみると、50代以下では、「食事の栄養バランス」と答えた人の割合が最も高く、60代以上では、「残留農薬や食品添加物など食品の安全・安心に関する情報」と答えた人の割合が最も高くなっている。

(年代別)

(%)



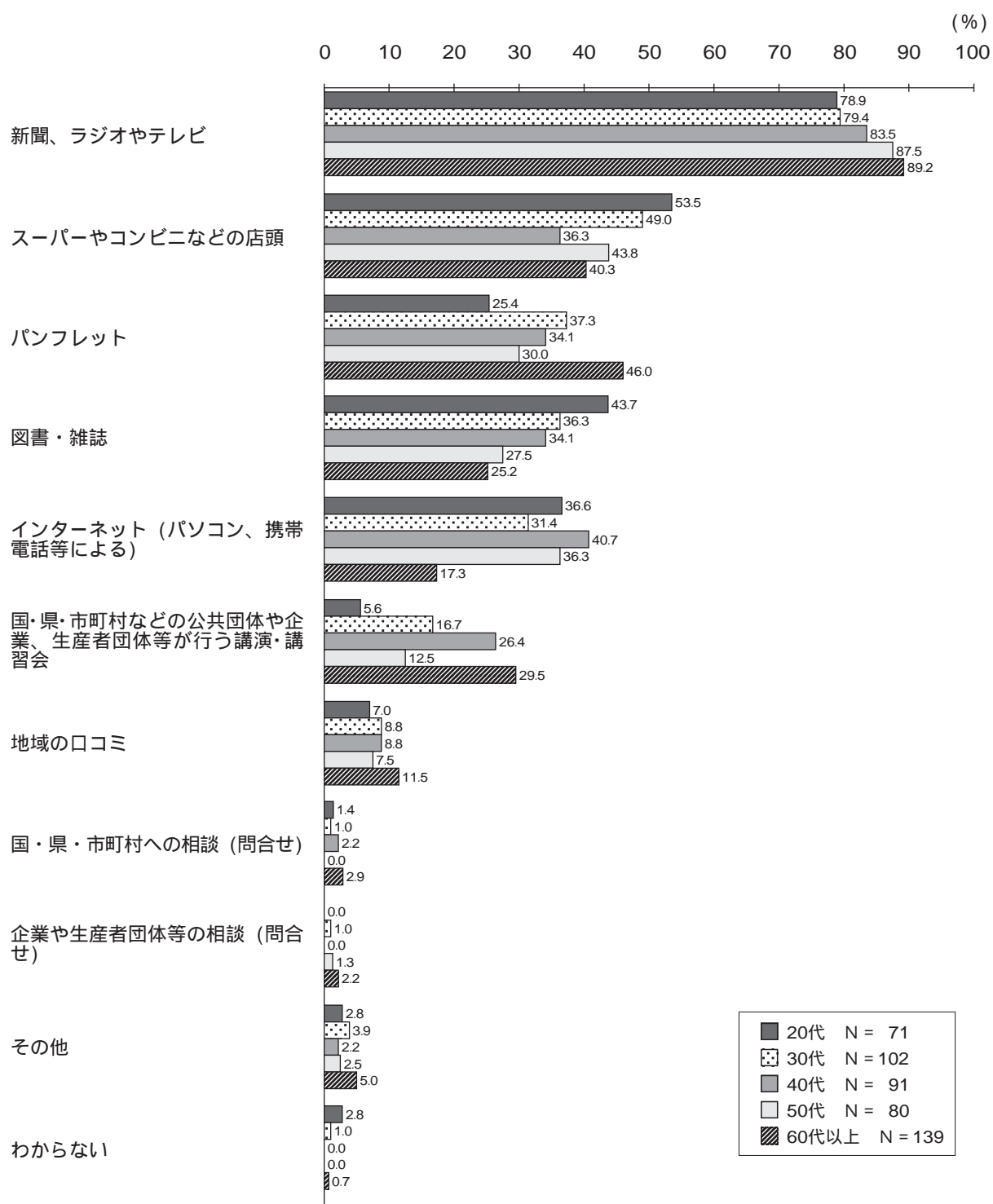
問9 あなたは、食育に関する知識や情報をどのような形で入手したいですか。(回答は3つ以内)



食育に関する知識や情報をどのような形で入手したいか尋ねたところ、「新聞、ラジオやテレビ」が84.3%、「スーパーやコンビニなどの店頭」が43.9%、「パンフレット」が36.2%、「図書・雑誌」が32.3%、「インターネット (パソコン、携帯電話等による)」が30.6%などとなっている。

年代別にみると、「新聞、ラジオやテレビ」と答えた人の割合は、年代が上がるほど高くなっている。

(年代別)

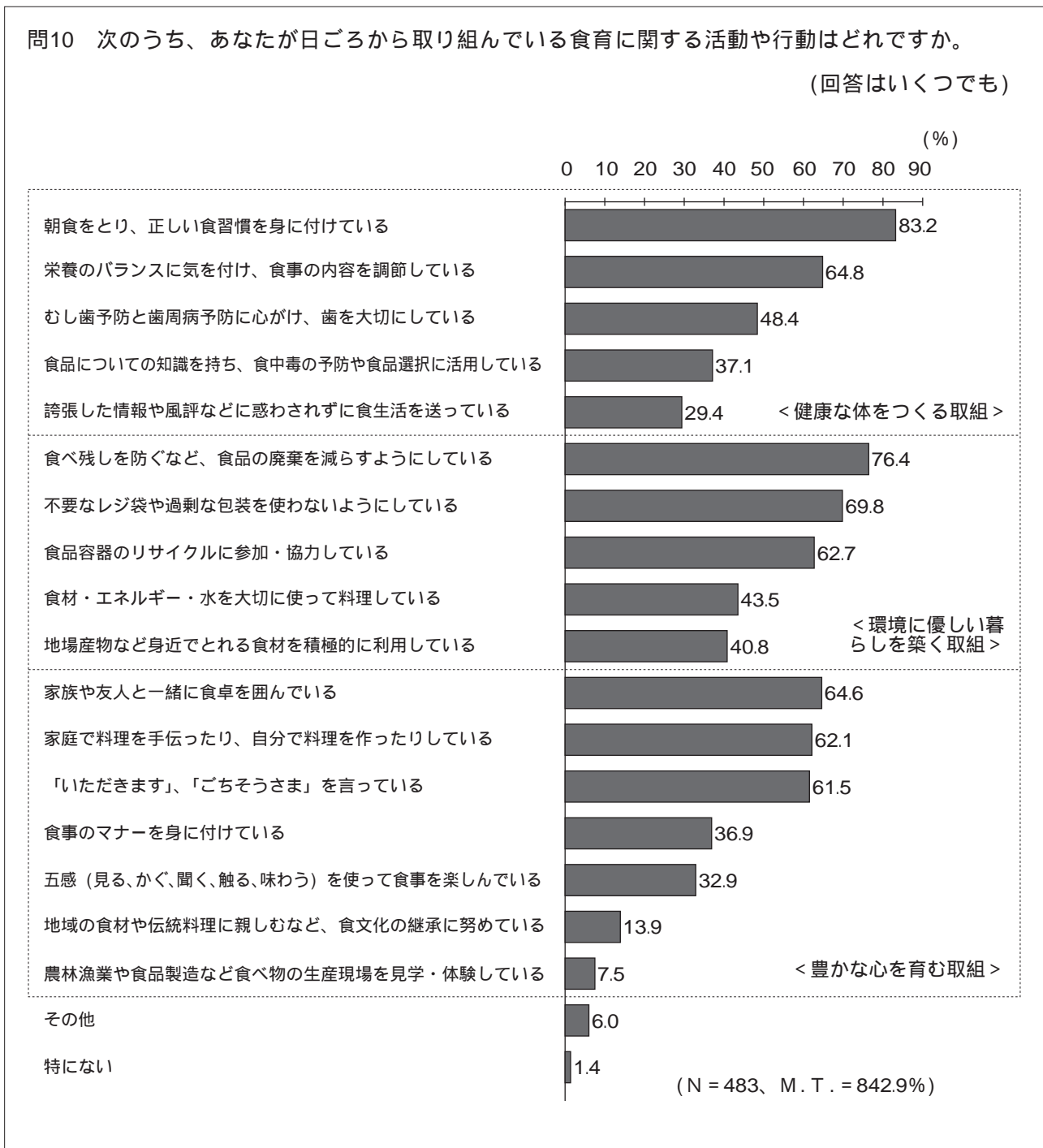


栄養バランスや食品の安全に関する情報など、生活や健康に直接かかわる身近な情報が必要とされています。反面、食品の流通過程や生産過程など日常生活ではみえない分野や直接的には生活に影響が少ない分野に関する情報については、必要と答えた人は少数でした。

情報の入手方法については「新聞、ラジオやテレビ」と答えた人が群を抜いて多く、また年代が上がるほど多かったことから、特に年代の高い層にはマスメディアによる啓発が効果的だと思われます。一方、「スーパーやコンビニなどの店頭」との回答も4割以上あり、食生活に直結した場面での啓発も有効だと考えられます。

(農林水産部食育推進課)

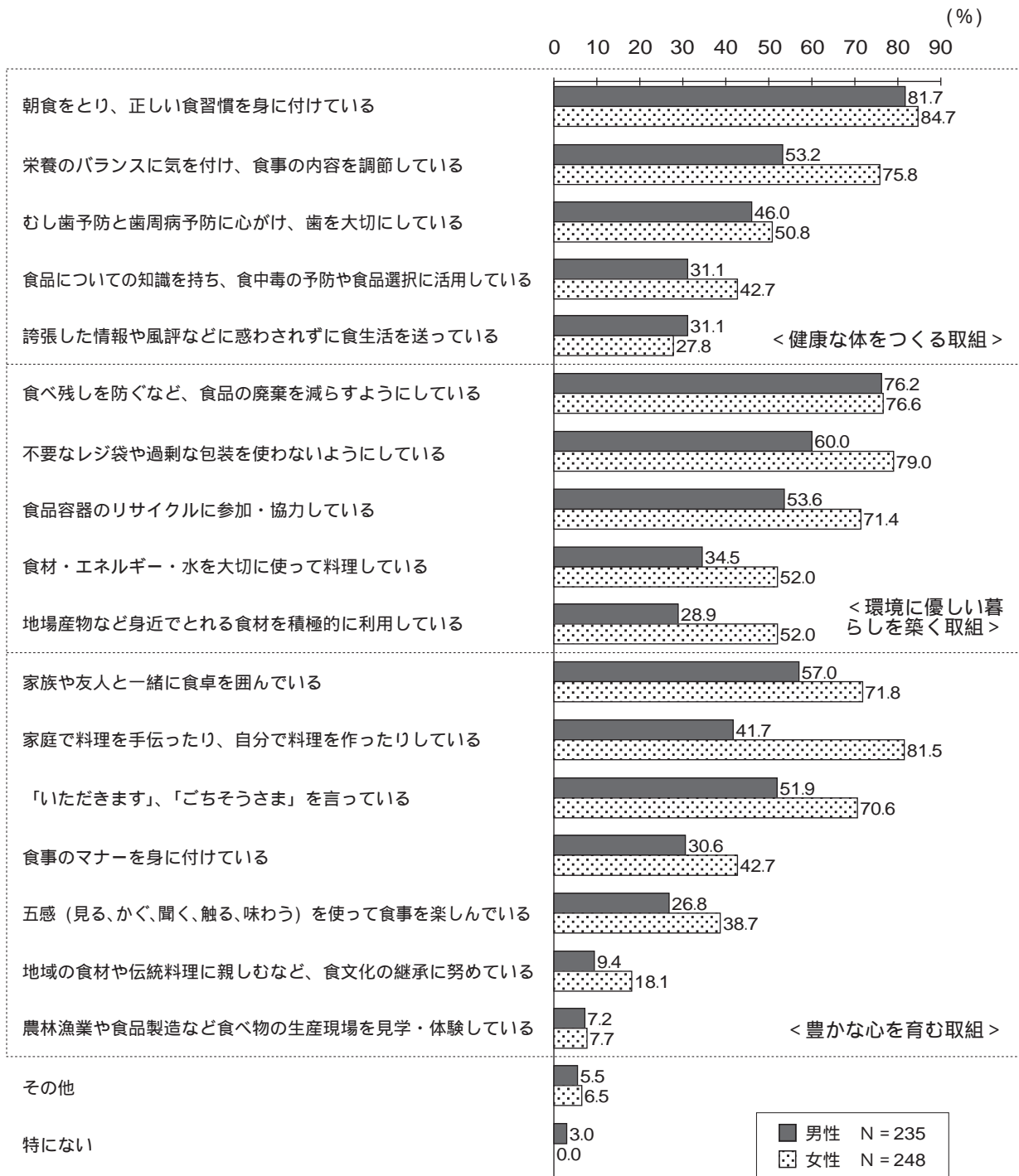
7 食育に関する主体的な取組



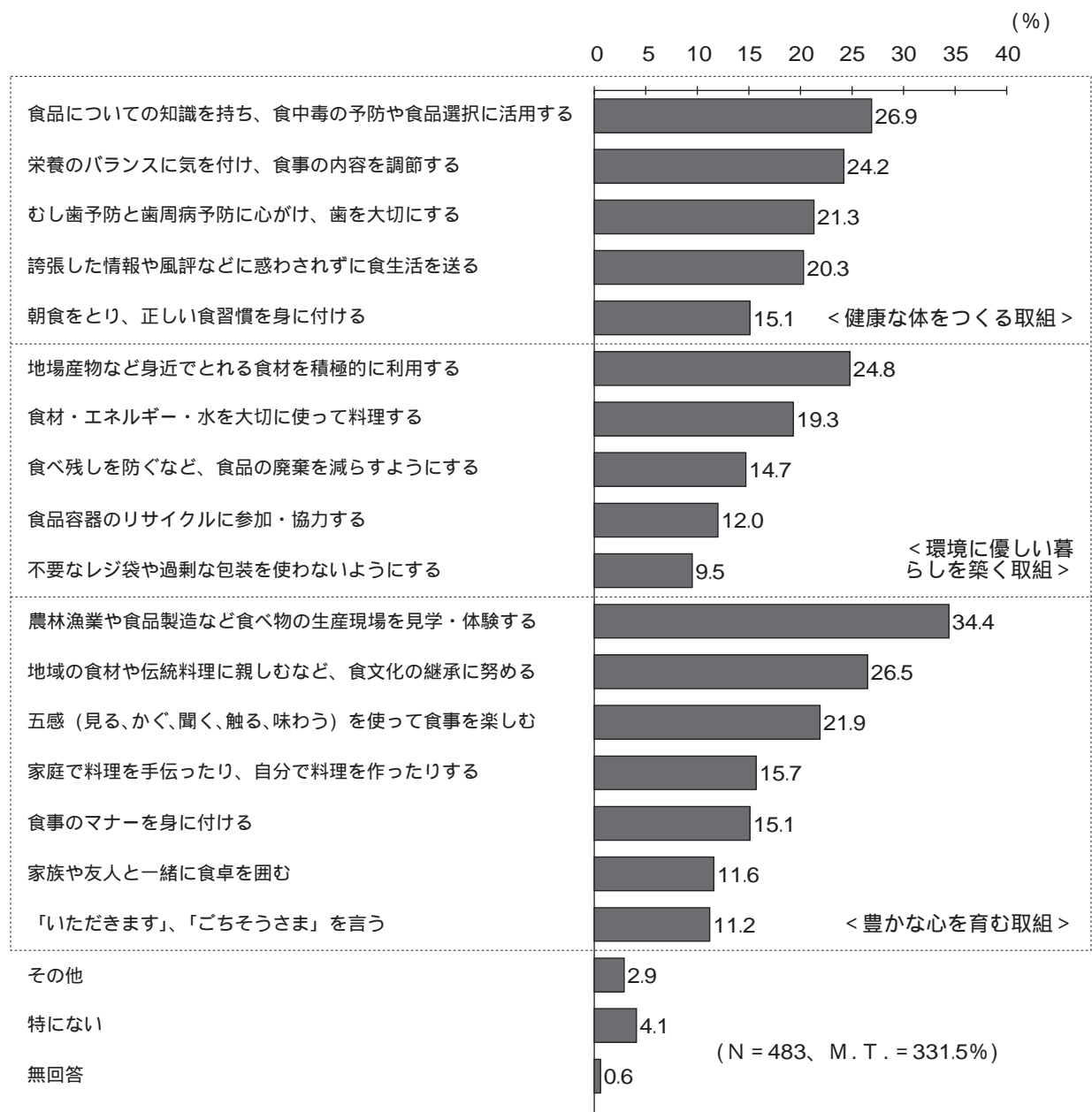
日ごろから取り組んでいる食育に関する活動や行動は何か尋ねたところ、「朝食をとり、正しい食習慣を身に付けている」が83.2%、「食べ残しを防ぐなど、食品の廃棄を減らすようにしている」が76.4%、「不要なレジ袋や過剰な包装を使わないようにしている」が69.8%、「栄養のバランスに気を付け、食事の内容を調節している」が64.8%、などとなっている。

男女別にみると、概ねすべての項目で、女性が男性を上回っている。

(男女別)



問11 次のうち、あなたが現在取り組んでいないものの、今後優先的に取り組みたいと考えている、食育に関する活動や行動はどれですか。(回答は5つ以内)

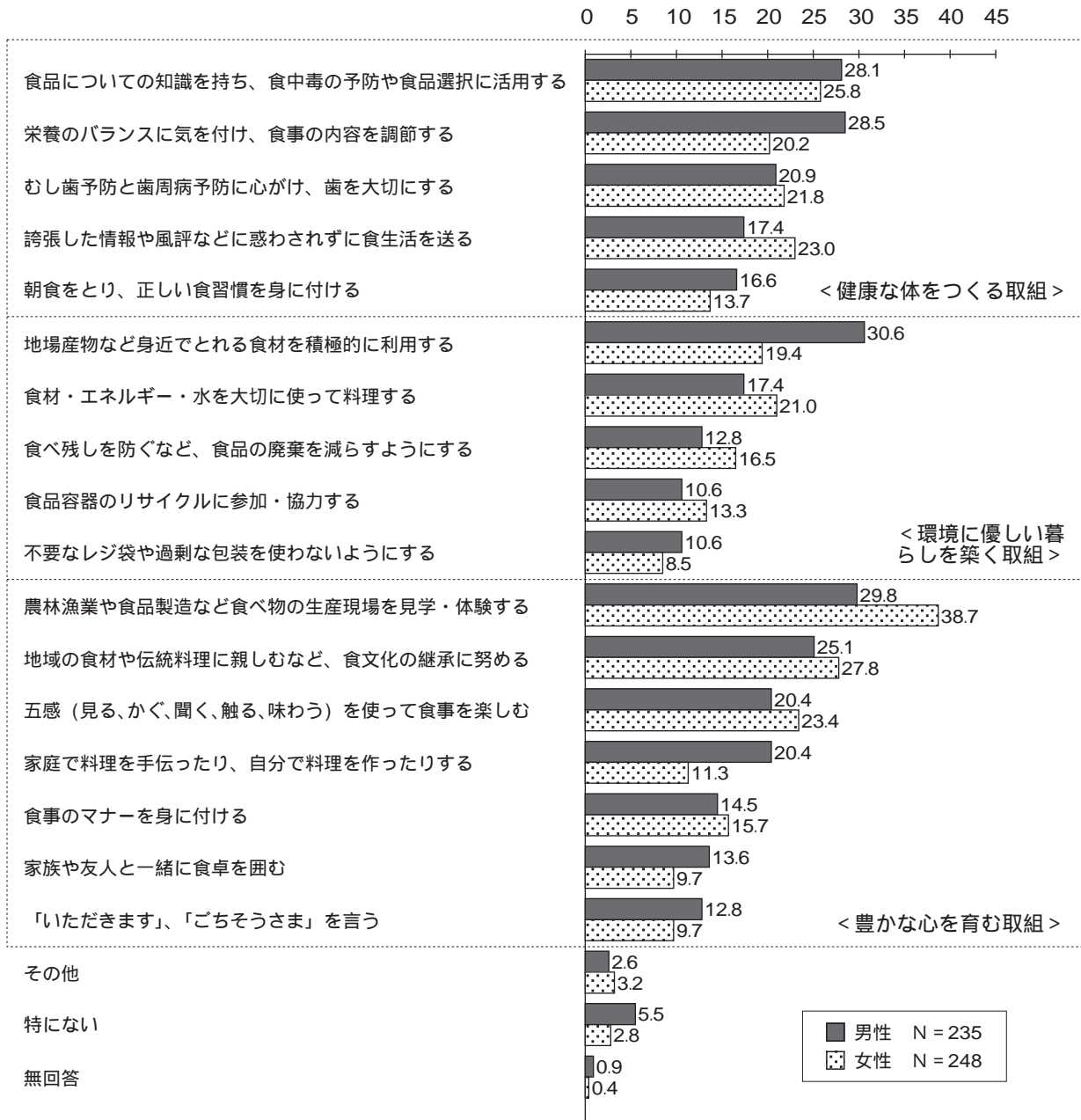


今後優先的に取り組みたいと考えている食育に関する活動や行動は何か尋ねたところ、「農林漁業や食品製造など食べ物の生産現場を見学・体験する」が34.4%、「食品についての知識を持ち、食中毒の予防や食品選択に活用する」が26.9%、「地域の食材や伝統料理に親しむなど、食文化の継承に努める」が26.5%、「地場産物など身近でとれる食材を積極的に利用する」が24.8%、「栄養のバランスに気を付け、食事の内容を調節する」が24.2%などとなっている。

男女別にみると、男性では、「地場産物など身近でとれる食材を積極的に利用する」と答えた人の割合が最も高く、次いで、「農林漁業や食品製造など食べ物の生産現場を見学・体験する」が高くなっている。一方、女性では、「農林漁業や食品製造など食べ物の生産現場を見学・体験する」と答えた人の割合が最も高く、次いで、「地域の食材や伝統料理に親しむなど、食文化の継承に努める」が高くなっている。

(男女別)

(%)



選択肢に挙げられている取組は、現在の「あいち食育いきいきプラン」の中で、「県民の主体的な取組」として掲げたものですが、全体として「健康な体をつくる」取組と「環境に優しい暮らしを築く」取組に比べ、「豊かな心を育む」取組が弱い傾向にあります。

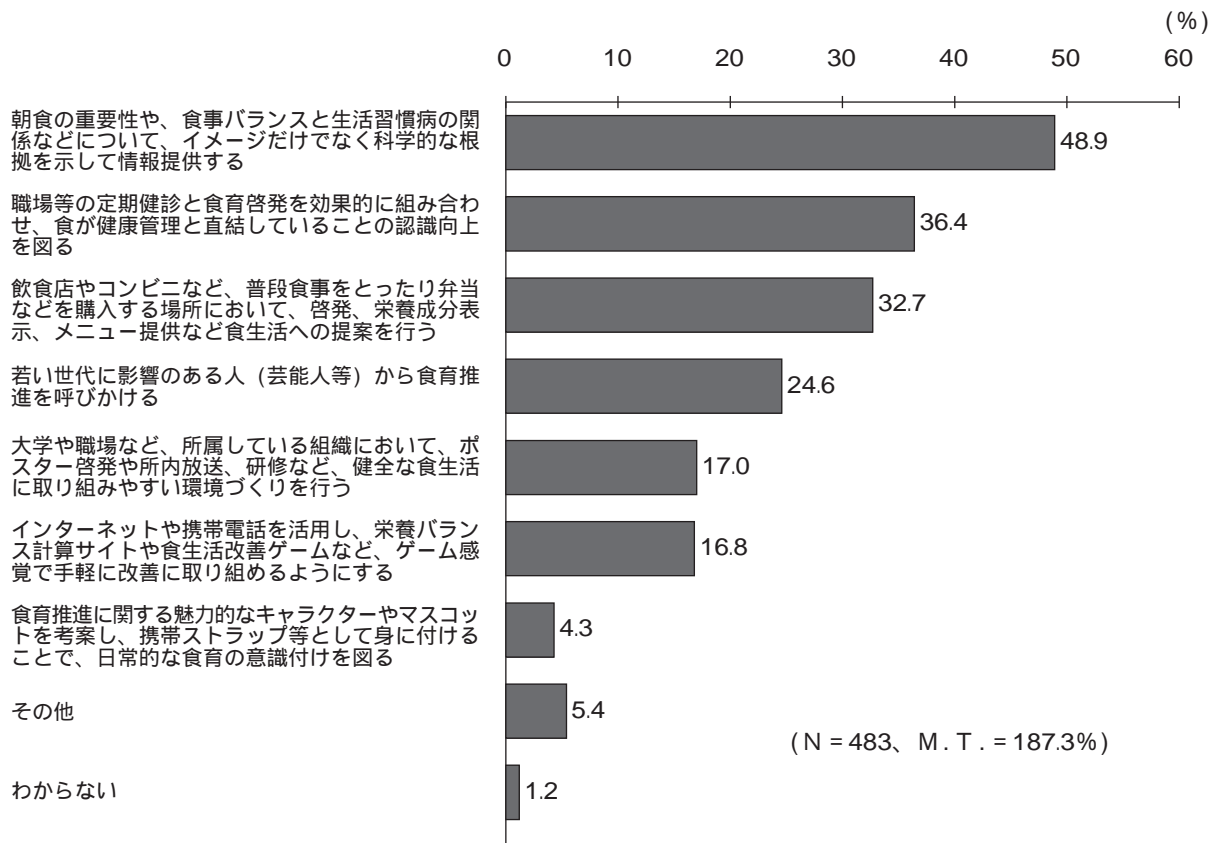
なお、日頃から取り組んでいる活動の中で「生産現場の見学、体験」が最も低かった反面、今後優先的に取り組みたいのが「生産現場の見学、体験」であったことから、これらに取り組む機会や場の提供が求められていると思われます。

(農林水産部食育推進課)

8 今後の食育推進に必要な取組

問12 近年の調査では、学校を中心とした食育の取組により、小中学生の食生活は改善が見られてきておりますが、一方、それ以降の世代、特に20代を中心に、若い方ほど朝食の欠食率を始め食生活の乱れが改善されていない傾向にあります。

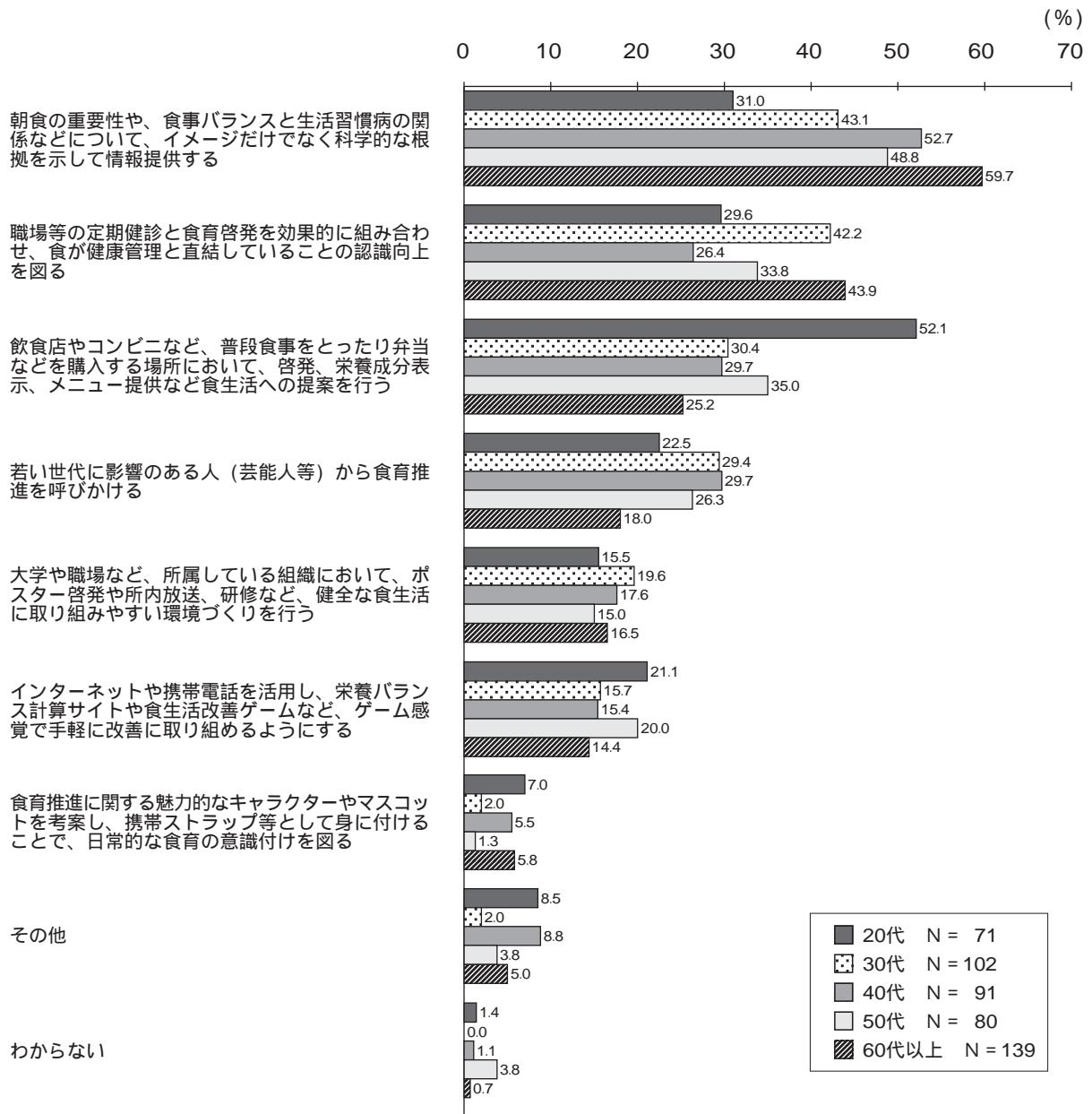
あなたは、20代を中心とした若い方の食生活改善のためには、次のどの取組が特に効果的と考えますか。(回答は2つ以内)



20代を中心とした若者の食生活改善のためにどの取組が特に効果的と考えるか尋ねたところ、「朝食の重要性や、食事バランスと生活習慣病の関係などについて、イメージだけでなく科学的な根拠を示して情報提供する」が48.9%、「職場等の定期健診と食育啓発を効果的に組み合わせ、食が健康管理と直結していることの認識向上を図る」が36.4%、「飲食店やコンビニなど、普段食事をとったり弁当などを購入する場所において、啓発、栄養成分表示、メニュー提供など食生活への提案を行う」が32.7%、などとなっている。

年代別にみると、「朝食の重要性や、食事バランスと生活習慣病の関係などについて、イメージだけでなく科学的な根拠を示して情報提供する」と答えた人の割合は、概ね年代が上がるほど高くなっている。

(年代別)



若者への啓発について、当事者である若い年代は、普段の食生活に直結する場面での啓発や提案を効果的と考え、一方、年代の高い層は、科学的な根拠による情報提供を効果的と考えていることがみとれます。

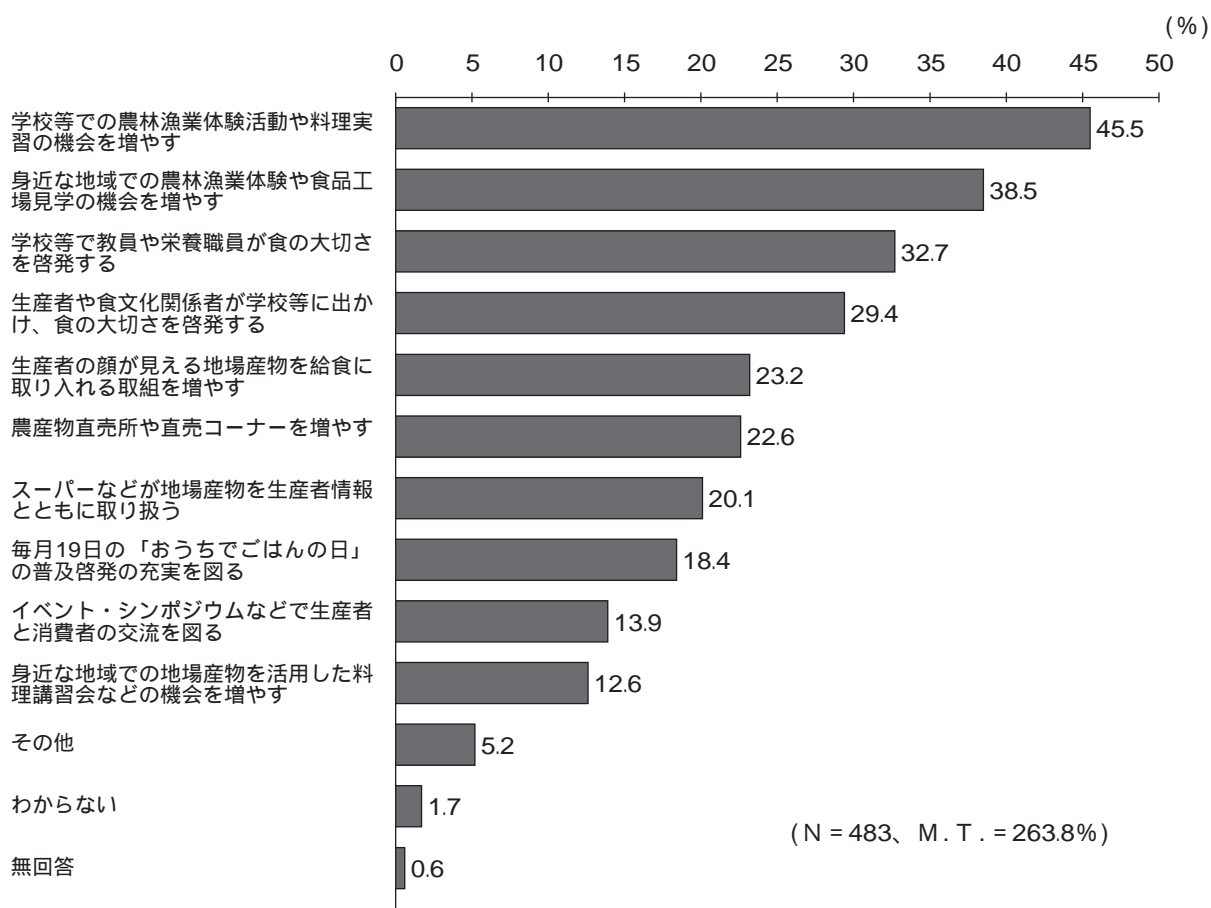
科学的根拠を踏まえた情報提供は、世代にかかわらず今後とも進めていく必要がありますが、問9の結果も踏まえると、店頭での啓発など様々な場面で啓発を進めることが重要と思われます。

(農林水産部食育推進課)

問13 家族や友人と食事を楽しんだり、命をいただくことへの感謝の念を深めるなど、食を通じて豊かな人間性を養うことが大切です。

あなたは、「食を通じて豊かな心を育む」ために、次のどの取組が特に効果的と考えますか。

(回答は3つ以内)



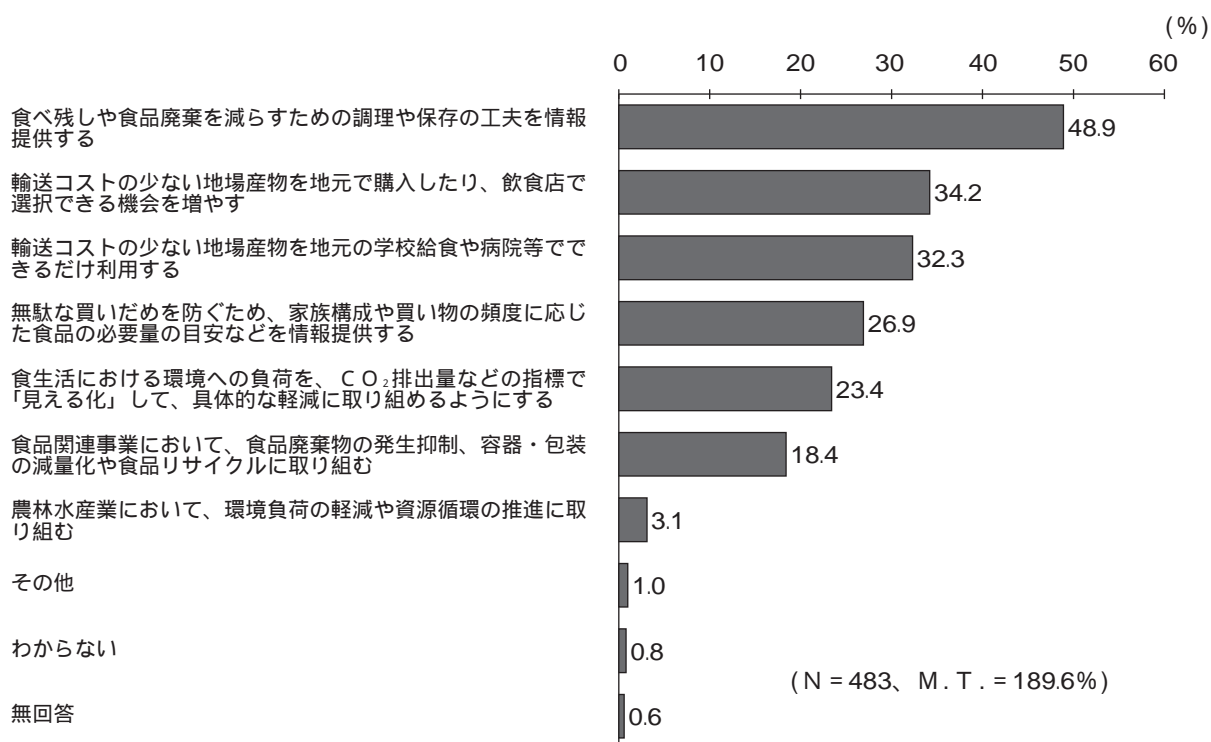
「食を通じて豊かな心を育む」ためにどの取組が特に効果的と考えるか尋ねたところ、「学校等での農林漁業体験活動や料理実習の機会を増やす」が45.5%、「身近な地域での農林漁業体験や食品工場見学の機会を増やす」が38.5%、「学校等で教員や栄養職員が食の大切さを啓発する」が32.7%、「生産者や食文化関係者が学校等に出かけ、食の大切さを啓発する」が29.4%、「生産者の顔が見える地場産物を給食に取り入れる取組を増やす」が23.2%などとなっている。

「豊かな心を育む取組」としては、実際に見て触れて体験する取組が効果的とされており、今後はこういった機会を拡充していくことが必要だと考えられます。

(農林水産部食育推進課)

問14 本県は、愛知万博やC O P 10の開催などを通じ、環境への意識が比較的高いと考えられますが、食べ物についても、生産と消費の両面から、環境負荷の軽減を図る必要があります。

あなたは、「食を通じて環境に優しい暮らしを築く」ために、次のどの取組が特に効果的と考えますか。(回答は2つ以内)



「食を通じて環境に優しい暮らしを築く」ために、次のどの取組が特に効果的と考えるか尋ねたところ、「食べ残しや食品廃棄を減らすための調理や保存の工夫を情報提供する」が48.9%、「輸送コストの少ない地場産物を地元で購入したり、飲食店で選択できる機会を増やす」が34.2%、「輸送コストの少ない地場産物を地元の学校給食や病院等でできるだけ利用する」が32.3%、「無駄な買いだめを防ぐため、家族構成や買い物の頻度に応じた食品の必要量の目安などを情報提供する」が26.9%、「食生活における環境への負荷を、C O₂排出量などの指標で「見える化」して、具体的な軽減に取り組めるようにする」が23.4%、などとなっている。

「調理や保存の工夫の情報提供」、「地場産物の購入・選択機会の増大」といった、自らの行動を変えるきっかけをもたらすような取組が上位になりました。生産・供給サイドによる環境への取組の推進はもちろん重要ですが、こうした県民自身の環境配慮への意欲を支援する取組が必要と考えられます。

(農林水産部食育推進課)

9 自由意見

問15 食育に関する取組についてご意見があれば、ご自由に記述してください。

食育に関する取組について、自由に意見を記入していただいたところ、345件の意見が寄せられた。それらを大別すると次表のとおりであり、以下、その意見の要旨をいくつか例示した。

項	目	件数
1 食を通じて健康な体をつくるために	(1) バランスのとれた食生活の推進	44
	(2) 生活習慣病の予防対策	5
	(3) 食品表示の適正化や安全に関する普及啓発	18
2 食を通じて豊かな心を育むために	(4) 食を通じたコミュニケーションの確保	34
	(5) 体験を通じた食の理解促進	34
	(6) 食文化の理解と継承	18
3 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために	(7) 環境に配慮した食生活等の推進	15
	(8) 地産地消の推進	24
	(9) 農林水産業や食品関連事業における環境への配慮	16
4 食育を広めるために	(10) 食育にかかる人材の育成	1
	(11) 食育ネットワークの構築	1
	(12) 食育の普及・啓発等	109
5 その他		26
		345

1 食を通じて健康な体をつくるために

(1) バランスのとれた食生活の推進

現代社会はいつでも好きな物が食べられ、栄養の過剰摂取が問題である。栄養バランスに気をつけるような啓発が必要だと思う。

誤ったダイエットによって健康を害する若者がいる。中学・高校生に対して正しい知識が身につくように授業で指導して欲しい。

コンビニや飲食店でファーストフードやお菓子を食事にしている人が多い。食育について基本的

な知識を再認識させる必要があると思う。

若い人で朝食をとらない人が多いのに驚く。朝食の重要性を説いてもなかなか改善されない。子どもの頃からの習慣という人もおり、親の生活習慣から改善する必要があると思う。

(2) 生活習慣病の予防対策

現在は飽食時代で、食育の大切さを忘れている。日本は長寿国といわれているが、反面病人が多いのも事実だ。特に成人病の割合が高く、医療費の増大を招いている。望ましい食生活を実践し、健康に暮らすためには、食育がいかに大切であるか学ぶ必要がある。

(3) 食品表示の適正化や安全に関する普及啓発

適正な食品表示を広める必要がある。特に加工食品・アレルギー物質・有機食品・遺伝子組み換えなど消費者にはわからない部分が多くあり、食育推進策として実施が望まれる。

大手スーパーにおいてアメリカ産牛肉の販売が解禁になった。危険だという学者もあり、またアメリカにおける検査体制の不備が報じられたため買い控えしていたが、安全性について不安を感じている。

食品偽装問題が今でもたまたま発生している。中国製食品の問題もあった。徹底的な調査による根絶を願っている。

2 食を通じて豊かな心を育むために

(4) 食を通じたコミュニケーションの確保

子どもの将来のため、まず両親が食の見本を見せることが必要だ。季節の食材を食べることや、みんなで食卓を囲む機会を増やすことを推奨したい。今日食べたものが将来の自分の健康に影響を及ぼすことを啓発すべきだ。

いのちの大切さを理解してもらいたい。自然の恩恵や生産者に感謝する気持ちを持って欲しい。現代の我が国では豊かな食料事情のもと、もったいない精神が欠如していると思う。

おうちでご飯を食べ、みんなで楽しく食卓を囲むことから食育を始めれば、次の段階に発展していく気がする。栄養バランスも重要だが、食の第一歩は食べる喜びだと思う。子どもとの食事・友人との食事を大切にしたいと思う。

おうちでごはんの日については、呼びかけるだけでなく、実行できるよう企業に義務化するよう

な施策が必要だと思う。

(5) 体験を通じた食の理解促進

食育は、幼少期からの食習慣が大きな影響を与えると思うので、子どもを囲む親・学校の教師等の連携が大切であると思う。

農林漁業体験をしたいと思ってる社会人は意外に多いと思う。親子向けのものだけでなく、大人向けのものであれば参加しやすいと思う。また、募集に気づかないことが多いので、もっとPRして欲しいと思う。

農地を持たない人が休耕地を活用して簡単に野菜作りができるように、税金の補助・広報活動・JAとの連携などの支援をして欲しい。

生産から消費までの過程を学ぶことが最も大切ではないか。生命から生命を生み出す大事な過程だと思う。育てられた生命（食肉・野菜）を無駄にすることなく、自分の生命を育むことが社会に対する責任を果たすことになるのではないだろうか。調理済食品では生命をいただいている感覚を養うことが出来ないのではないかとも思う。

(6) 食文化の理解と継承

食べる事は自然の摂理である。その当たり前前事がいかに大切かを忘れてる日本人が多いと思う。自分の住む町のみならず、国、世界、地球という大きな規模でもっと考えることが必要だと思った。

学校等で地元のお年寄りに昔からの食文化について話してもらえると、子どもたちにより影響があると思う。親子で聴く機会があると一層うれしい。食育は、個人より家族単位の課題のように思う。

3 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために

(7) 環境に配慮した食生活等の推進

食料は限られており、大切にすることを広めていく必要を感じる。

スーパー等でつい色々買いすぎてしまうため、無駄なものを買わないようにしようと思った。

自然界の生き物は、自分が生きるのに必要な量しか食べない。人間も地球の生き物の一員として、このような意識が大切だと思う。もったいない食べ方はいけないと、よく子どもに話す。

(8) 地産地消の推進

食品の輸送距離が少ない程CO₂削減になり、環境によい。「地産地消」を推進するべきではないか。

日本の自給率の低さが心配である。もっと農林水産業を支援して欲しい。将来、子や孫達が安心・安全に暮らせるように望む。

スーパー等でもっと地元の野菜や肉を購入できるように行政に協力して欲しい。道の駅に皆が殺到するが、地元の新鮮な野菜が欲しいという消費者の意向だと思う。

(9) 農林水産業や食品関連事業における環境への配慮

化学肥料や農薬を多く使って収量を増やしたり見かけをよくするのではなく、自然と共生していく謙虚さが必要ではないか。世界中の人々の食料を確保していくためには、環境に配慮した循環型農業が大切であると思う。

スーパーやデパート等で閉店間際に生鮮品、惣菜の売り切りを徹底すべきだと思う。残った食品が廃棄されるのは悲しいことだ。価格を下げてでも完売するような取組みをもっとすべきだ。

県政には、飲食店等での食べ残しを飼料等にリサイクルするような取組みが求められると思う。

4 食育を広めるために

(10) 食育にかかる人材の育成

核家族化によって、食について伝わらなくなったことが沢山あるような気がする。年輩の方々は、食事に関することにも様々な知恵を持っているため、そういった知恵を学ぶ機会があってもいいのではと思う。プロの先生方もいいが、身近な方々から学ぶ方が親しみが持てて、受け入れやすい気がする。元気なお年寄の方を活用しない手はないと思う。

(11) 食育ネットワークの構築

生きて行くのに一番重要な「食」が今おろそかにされている。家庭はもとより、学校・地域社会・国・県全体で食育の重要性について認識を共有し、推進しなければならないと感じる。

(12) 食育の普及・啓発等

食育推進にとって何より重要で効果的なのは、家庭での教育であると考え。とくに母親の役割が大きい。地域的で母親向けの食育教育を定期的実施してはどうか。

食育の教育を幼稚園・小学校など幼いころからおこなうことで、子どもから親、親から子どもへと共に教育できると思う。

食べるという事は生きていく上で一番重要な事なのに、現在どのくらいの人が食育について考えているのか疑問である。テレビ・新聞等で啓発の機会を増やしていかないと、これからの子ども達の食生活が心配だ。

「食育」という言葉は割と浸透している印象がある。しかし、その意義の認識や実践は不十分だと思う。マスメディアを通じて、もっとその意義や実践方法の紹介に励んでもらいたい。

食育の取組は、施策が単発であっては効果がなく、繰り返し実施する事が必要だ。その上で定期的に効果を検証し、マンネリ化防止と取組方法の見直しをすることが必要だ。

5 その他

食育は、学校や行政が介入すべき分野なのだろうか。家庭のしつけの一環のような気がする。

食生活が豊かになりすぎて、「食育」を考えなくてはならない時代なのかもしれないが、あまり気にしすぎると食を楽しむゆとりがなくなりそうだと思う。

活動の柱の中で「食を通じて豊かな心を育む」、「環境にやさしい暮らしを築く」とあるが、「食を通じて健康な体をつくる」取組みに特化すればよいのではないか。あれもこれもやろうとして、何もできないことにならないか。優先度の高いことからしっかり取り組んで欲しい。

食と健康が密接に関係していることは理解するが、人によって意見はそれぞれ異なるのではないか。

次の時代のために豊かな人材を育てるには、「食育」をどう考えるかが必要だと感じている。

食育に必要なのはやっぱり女性だと思う。将来結婚し、妻となり、母となる人達だからだ。

質問と回答 (単位...「総数」：人、「総数」以外：%、四捨五入により合計は必ずしも100%にならない)

1 食育への関心

問1 あなたは、「食育」という言葉やその意味を知っていましたか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	483	235	248	149	181	153	71	102	91	80	139
1 言葉も意味も知っていた	63.8	57.9	69.4	60.4	69.1	60.8	54.9	64.7	68.1	70.0	61.2
2 言葉は知っていたが、意味は知らなかった	31.3	33.6	29.0	32.9	27.6	34.0	38.0	34.3	28.6	22.5	32.4
3 言葉も意味も知らなかった	4.1	6.8	1.6	4.0	3.3	5.2	5.6	1.0	0.0	7.5	6.5
無回答	0.8	1.7	0.0	2.7	0.0	0.0	1.4	0.0	3.3	0.0	0.0

問2 あなたは、「食育」に関心がありますか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	483	235	248	149	181	153	71	102	91	80	139
1 関心がある	50.5	39.1	61.3	51.0	51.4	49.0	45.1	50.0	56.0	45.0	53.2
2 どちらかといえば関心がある	38.5	43.4	33.9	36.9	41.4	36.6	36.6	40.2	31.9	40.0	41.7
3 どちらかといえば関心がない	9.1	14.5	4.0	7.4	7.2	13.1	14.1	9.8	8.8	12.5	4.3
4 関心がない	1.4	2.6	0.4	4.0	0.0	0.7	4.2	0.0	2.2	2.5	0.0
無回答	0.4	0.4	0.4	0.7	0.0	0.7	0.0	0.0	1.1	0.0	0.7

2 バランスのとれた食事の実践

問3 あなたは、栄養バランスのとれた食事をしていますか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	483	235	248	149	181	153	71	102	91	80	139
1 積極的にしている	11.6	8.9	14.1	12.1	9.9	13.1	12.7	7.8	9.9	10.0	15.8
2 できるだけするようにしており、まあ良好である	33.7	34.0	33.5	28.9	36.5	35.3	21.1	30.4	35.2	37.5	39.6
3 できるだけするようにしているが、まだ改善の余地がある	37.7	34.5	40.7	40.9	37.0	35.3	35.2	44.1	39.6	33.8	35.3
4 できるだけするようにしているが、あまりできていない	14.9	19.6	10.5	14.1	14.9	15.7	22.5	16.7	15.4	16.3	8.6
5 あまりしていない	1.7	2.6	0.8	2.7	1.7	0.7	5.6	1.0	0.0	2.5	0.7
6 していない	0.4	0.4	0.4	1.3	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問4 あなたは、「食事バランスガイド」を知っていましたか。また、食生活の参考にしていますか。

(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	483	235	248	149	181	153	71	102	91	80	139
1 よく知っており、食生活の参考にしている	11.6	8.1	14.9	11.4	8.8	15.0	5.6	10.8	11.0	13.8	14.4
2 内容を含めて知っているが、活用まではできていない	43.7	33.6	53.2	42.3	49.7	37.9	47.9	44.1	44.0	46.3	39.6
3 見たり聞いたことはあるが、内容までは知らなかった	27.7	32.3	23.4	26.2	26.0	31.4	32.4	28.4	31.9	23.8	24.5
4 知らなかった	17.0	26.0	8.5	20.1	15.5	15.7	14.1	16.7	13.2	16.3	21.6
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

3 「おうちでごはんの日」の認知度

問5 あなたは、「おうちでごはんの日」を知っていましたか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	483	235	248	149	181	153	71	102	91	80	139
1 よく知っており、意識的に取り組んでいる	6.4	4.3	8.5	3.4	8.3	7.2	0.0	6.9	11.0	5.0	7.2
2 内容を含めて知っているが、取り組みには至っていない	8.1	7.7	8.5	8.7	8.3	7.2	8.5	2.9	7.7	7.5	12.2
3 聞いたことはあるが、内容までは知らなかった	18.0	18.7	17.3	14.8	20.4	18.3	8.5	8.8	16.5	20.0	29.5
4 知らなかった	67.1	68.9	65.3	72.5	63.0	66.7	81.7	81.4	64.8	67.5	50.4
無回答	0.4	0.4	0.4	0.7	0.0	0.7	1.4	0.0	0.0	0.0	0.7

4 食品の安全性に関する知識

問6 あなたは、健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選んだ方がよいかや、どのような調理が必要かについての知識があると思いますか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	483	235	248	149	181	153	71	102	91	80	139
1 十分にあると思う	10.1	6.4	13.7	9.4	9.9	11.1	2.8	5.9	14.3	7.5	15.8
2 ある程度あると思う	60.7	55.3	65.7	57.0	63.0	61.4	56.3	56.9	59.3	60.0	66.9
3 あまりないと思う	26.3	33.2	19.8	29.5	24.9	24.8	32.4	34.3	25.3	28.8	16.5
4 まったくないと思う	2.9	5.1	0.8	4.0	2.2	2.6	8.5	2.9	1.1	3.8	0.7
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

5 農林水産業に親しむ活動への参加

問7 食育を推進するには、食の大切さを理解したり、農林水産業の役割を知ることが必要です。

農林水産業の役割を理解するためには、日々の生活の中で農林水産業に関係する活動に取り組んだり、参加したりすることが望まれます。

あなたは、この1年の間に、農林水産業に関係する次のどんな活動をしましたか。

(回答はいくつでも)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	483	235	248	149	181	153	71	102	91	80	139
1 田植えや稲刈り、芋掘りなどの農業体験	18.0	16.6	19.4	14.1	22.7	16.3	8.5	23.5	15.4	13.8	23.0
2 間伐や木工教室、きのこの菌打ちなどの林業体験	5.6	6.0	5.2	5.4	5.5	5.9	2.8	6.9	5.5	2.5	7.9
3 定置網や地引網などの漁業体験	0.6	1.3	0.0	0.7	0.0	1.3	1.4	0.0	2.2	0.0	0.0
4 市民農園(貸し農園)を利用しての野菜等の栽培	13.3	14.0	12.5	10.1	18.2	10.5	5.6	9.8	6.6	7.5	27.3
5 農地や水路の美化・保全活動などの農村環境を守るための活動	6.4	8.9	4.0	3.4	5.5	10.5	2.8	3.9	5.5	2.5	12.9
6 援農(農家の手伝い)や海浜清掃等のボランティア的な活動	5.6	6.0	5.2	4.0	6.1	6.5	4.2	2.0	7.7	3.8	8.6
7 職業や家族の手伝いとして農林水産業に実際に従事	10.4	7.7	12.9	2.7	11.0	17.0	9.9	12.7	3.3	13.8	11.5
8 その他	11.0	10.6	11.3	9.4	13.3	9.8	5.6	5.9	7.7	11.3	19.4
9 農林水産業に関係する活動はしなかった	55.9	57.4	54.4	65.8	49.2	54.2	71.8	56.9	65.9	61.3	37.4
無回答	0.4	0.9	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.7

6 食育に関する情報の入手

問8 あなたは、食育についてどのような情報が必要だと思いますか。(回答は5つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	483	235	248	149	181	153	71	102	91	80	139
1 食事の栄養バランス	60.7	60.4	60.9	61.7	57.5	63.4	54.9	63.7	59.3	61.3	61.9
2 食品の栄養やそのはたらき	55.5	52.8	58.1	56.4	51.4	59.5	46.5	61.8	49.5	60.0	56.8
3 食事に関する作法やしつけ	31.1	26.8	35.1	30.2	29.8	33.3	39.4	32.4	31.9	26.3	28.1
4 残留農薬や食品添加物など食品の安全・安心に関する情報	58.6	59.1	58.1	59.7	62.4	52.9	42.3	52.9	57.1	55.0	74.1
5 様々な料理の調理法	31.1	25.1	36.7	28.2	33.7	30.7	45.1	33.3	30.8	35.0	20.1
6 農業や漁業を体験する方法	20.7	22.1	19.4	22.1	21.5	18.3	23.9	27.5	23.1	17.5	14.4
7 農林水産物や加工食品などの生産過程	15.7	15.7	15.7	16.1	14.4	17.0	7.0	14.7	18.7	11.3	21.6
8 食品表示の読み方やその方法	31.1	34.0	28.2	34.9	30.4	28.1	23.9	23.5	26.4	35.0	41.0
9 食に関わるイベント情報	18.2	16.6	19.8	20.8	18.2	15.7	16.9	17.6	20.9	17.5	18.0
10 食品の流通過程	15.3	14.0	16.5	15.4	17.7	12.4	16.9	10.8	14.3	16.3	18.0
11 郷土料理など食文化や食の歴史	23.6	20.9	26.2	20.8	24.9	24.8	25.4	30.4	26.4	21.3	17.3
12 食料自給状況に関する情報	17.2	16.2	18.1	19.5	17.7	14.4	9.9	18.6	15.4	16.3	21.6
13 食べ残しや食品の廃棄を減らす取組に関する情報	39.5	37.4	41.5	38.9	40.3	39.2	47.9	39.2	40.7	43.8	32.4
14 地元や県内産の農林水産物に関する情報	27.7	28.5	27.0	26.2	27.1	30.1	23.9	29.4	31.9	21.3	29.5
15 その他	2.1	3.0	1.2	1.3	3.3	1.3	1.4	1.0	3.3	1.3	2.9
16 わからない	0.4	0.9	0.0	0.0	0.0	1.3	1.4	0.0	0.0	0.0	0.7
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問9 あなたは、食育に関する知識や情報をどのような形で入手したいですか。(回答は3つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代 以上
総数	483	235	248	149	181	153	71	102	91	80	139
1 新聞、ラジオやテレビ	84.3	80.4	87.9	87.2	81.2	85.0	78.9	79.4	83.5	87.5	89.2
2 図書・雑誌	32.3	27.2	37.1	28.2	31.5	37.3	43.7	36.3	34.1	27.5	25.2
3 パンフレット	36.2	36.2	36.3	44.3	32.6	32.7	25.4	37.3	34.1	30.0	46.0
4 インターネット(パソコン、携帯電話等による)	30.6	37.9	23.8	32.2	30.9	28.8	36.6	31.4	40.7	36.3	17.3
5 国・県・市町村などの公共団体や企業、生産者団体等が行う講演・講習会	19.9	19.1	20.6	17.4	23.8	17.6	5.6	16.7	26.4	12.5	29.5
6 スーパーやコンビニなどの店頭	43.9	36.2	51.2	38.9	49.2	42.5	53.5	49.0	36.3	43.8	40.3
7 国・県・市町村への相談(問合せ)	1.7	1.3	2.0	2.0	1.1	2.0	1.4	1.0	2.2	0.0	2.9
8 企業や生産者団体等の相談(問合せ)	1.0	1.3	0.8	0.7	1.1	1.3	0.0	1.0	0.0	1.3	2.2
9 地域の口コミ	9.1	8.1	10.1	9.4	11.0	6.5	7.0	8.8	8.8	7.5	11.5
10 その他	3.5	3.4	3.6	5.4	3.3	2.0	2.8	3.9	2.2	2.5	5.0
11 わからない	0.8	1.3	0.4	0.7	0.0	2.0	2.8	1.0	0.0	0.0	0.7

7 食育に関する主体的な取組

問10 次のうち、あなたが日ごろから取り組んでいる、食育に関する活動や行動はどれですか。(回答はいくつでも)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	483	235	248	149	181	153	71	102	91	80	139
1 朝食をとり、正しい食習慣を身に付けている	83.2	81.7	84.7	79.2	82.9	87.6	77.5	77.5	84.6	78.8	92.1
2 栄養のバランスに気を付け、食事の内容を調節している	64.8	53.2	75.8	64.4	64.1	66.0	47.9	60.8	68.1	60.0	77.0
3 食品についての知識を持ち、食中毒の予防や食品選択に活用している	37.1	31.1	42.7	34.9	38.7	37.3	35.2	31.4	38.5	38.8	40.3
4 誇張した情報や風評などに惑わされずに食生活を送っている	29.4	31.1	27.8	34.9	26.0	28.1	23.9	20.6	27.5	36.3	36.0
5 むし歯予防と歯周病予防に心がけ、歯を大切にしている	48.4	46.0	50.8	49.7	50.8	44.4	46.5	49.0	50.5	46.3	48.9
6 「いただきます」、「ごちそうさま」を言っている	61.5	51.9	70.6	61.1	62.4	60.8	63.4	74.5	62.6	48.8	57.6
7 家族や友人と一緒に食卓を囲んでいる	64.6	57.0	71.8	63.8	68.0	61.4	57.7	73.5	68.1	51.3	66.9
8 食事のマナーを身に付けている	36.9	30.6	42.7	34.2	38.1	37.9	49.3	35.3	38.5	28.8	35.3
9 家庭で料理を手伝ったり、自分で料理を作ったりしている	62.1	41.7	81.5	61.7	60.8	64.1	59.2	67.6	63.7	58.8	60.4
10 五感（見る、かぐ、聞く、触る、味わう）を使って食事を楽しんでいる	32.9	26.8	38.7	34.2	30.4	34.6	29.6	27.5	28.6	28.8	43.9
11 農林漁業や食品製造など食べ物の生産現場を見学・体験している	7.5	7.2	7.7	8.1	7.7	6.5	4.2	10.8	11.0	3.8	6.5
12 地域の食材や伝統料理に親しむなど、食文化の継承に努めている	13.9	9.4	18.1	14.1	12.7	15.0	16.9	17.6	16.5	8.8	10.8
13 食べ残しを防ぐなど、食品の廃棄を減らすようにしている	76.4	76.2	76.6	77.2	77.9	73.9	69.0	73.5	78.0	78.8	79.9
14 地場産物など身近でとれる食材を積極的に利用している	40.8	28.9	52.0	32.9	40.3	49.0	29.6	37.3	38.5	37.5	52.5
15 不要なレジ袋や過剰な包装を使わないようにしている	69.8	60.0	79.0	75.8	71.3	62.1	77.5	74.5	68.1	67.5	64.7
16 食材・エネルギー・水を大切に使う料理している	43.5	34.5	52.0	43.6	42.0	45.1	38.0	41.2	41.8	35.0	54.0
17 食品容器のリサイクルに参加・協力している	62.7	53.6	71.4	65.8	61.9	60.8	46.5	65.7	69.2	60.0	66.2
18 その他	6.0	5.5	6.5	6.0	5.0	7.2	1.4	2.0	6.6	7.5	10.1
19 特にない	1.4	3.0	0.0	2.7	1.1	0.7	1.4	2.0	0.0	1.3	2.2
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問11 次のうち、あなたが現在取り組んでいないものの、今後優先的に取り組みたいと考えている、食育に関する活動や行動はどれですか。(回答は5つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	483	235	248	149	181	153	71	102	91	80	139
1 朝食をとり、正しい食習慣を身に付ける	15.1	16.6	13.7	14.1	14.4	17.0	16.9	14.7	13.2	15.0	15.8
2 栄養のバランスに気を付け、食事の内容を調節する	24.2	28.5	20.2	24.2	24.9	23.5	31.0	24.5	18.7	31.3	20.1
3 食品についての知識を持ち、食中毒の予防や食品選択に活用する	26.9	28.1	25.8	28.9	24.3	28.1	21.1	29.4	24.2	16.3	36.0
4 誇張した情報や風評などに惑わされずに食生活を送る	20.3	17.4	23.0	18.1	22.7	19.6	19.7	25.5	15.4	20.0	20.1
5 むし歯予防と歯周病予防に心がけ、歯を大切にする	21.3	20.9	21.8	24.8	18.8	20.9	22.5	18.6	17.6	17.5	27.3
6 「いただきます」、「ごちそうさま」を言う	11.2	12.8	9.7	10.7	12.2	10.5	7.0	8.8	9.9	12.5	15.1
7 家族や友人と一緒に食卓を囲む	11.6	13.6	9.7	12.8	12.2	9.8	9.9	11.8	8.8	12.5	13.7
8 食事のマナーを身に付ける	15.1	14.5	15.7	16.1	13.3	16.3	18.3	16.7	12.1	11.3	16.5
9 家庭で料理を手伝ったり、自分で料理を作ったりする	15.7	20.4	11.3	16.1	17.7	13.1	23.9	9.8	11.0	12.5	20.9
10 五感（見る、かぐ、聞く、触る、味わう）を使って食事を楽しむ	21.9	20.4	23.4	18.8	19.9	27.5	21.1	20.6	23.1	26.3	20.1
11 農林漁業や食品製造など食べ物の生産現場を見学・体験する	34.4	29.8	38.7	31.5	37.0	34.0	23.9	43.1	33.0	31.3	36.0
12 地域の食材や伝統料理に親しむなど、食文化の継承に努める	26.5	25.1	27.8	26.2	26.5	26.8	22.5	32.4	26.4	18.8	28.8
13 食べ残しを防ぐなど、食品の廃棄を減らすようにする	14.7	12.8	16.5	12.8	13.3	18.3	12.7	14.7	13.2	11.3	18.7
14 地場産物など身近でとれる食材を積極的に利用する	24.8	30.6	19.4	30.2	25.4	19.0	21.1	22.5	28.6	28.8	23.7
15 不要なレジ袋や過剰な包装を使わないようにする	9.5	10.6	8.5	4.7	11.0	12.4	9.9	2.9	5.5	7.5	18.0
16 食材・エネルギー・水を大切に使う料理をする	19.3	17.4	21.0	22.1	21.0	14.4	16.9	19.6	17.6	31.3	14.4
17 食品容器のリサイクルに参加・協力する	12.0	10.6	13.3	13.4	12.2	10.5	21.1	9.8	9.9	10.0	11.5
18 その他	2.9	2.6	3.2	2.7	2.8	3.3	0.0	2.9	3.3	1.3	5.0
19 特になし	4.1	5.5	2.8	4.0	3.3	5.2	2.8	2.0	5.5	6.3	4.3
無回答	0.6	0.9	0.4	1.3	0.6	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	1.4

8 今後の食育推進に必要な取組

問12 近年の調査では、学校を中心とした食育の取組により、小中学生の食生活は改善が見られてきておりますが、一方、それ以降の世代、特に20代を中心に、若い方ほど朝食の欠食率を始め食生活の乱れが改善されていない傾向にあります。

あなたは、20代を中心とした若い方の食生活改善のためには、次のどの取組が特に効果的と考えますか。(回答は2つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	483	235	248	149	181	153	71	102	91	80	139
1 朝食の重要性や、食事バランスと生活習慣病の関係などについて、イメージだけでなく科学的な根拠を示して情報提供する	48.9	51.5	46.4	49.0	48.1	49.7	31.0	43.1	52.7	48.8	59.7
2 大学や職場など、所属している組織において、ポスター啓発や所内放送、研修など、健全な食生活に取り組みやすい環境づくりを行う	17.0	13.6	20.2	13.4	18.2	19.0	15.5	19.6	17.6	15.0	16.5
3 職場等の定期健診と食育啓発を効果的に組み合わせ、食が健康管理と直結していることの認識向上を図る	36.4	34.5	38.3	38.3	35.9	35.3	29.6	42.2	26.4	33.8	43.9
4 飲食店やコンビニなど、普段食事をとったり弁当などを購入する場所において、啓発、栄養成分表示、メニュー提供など食生活への提案を行う	32.7	31.1	34.3	30.9	34.3	32.7	52.1	30.4	29.7	35.0	25.2
5 インターネットや携帯電話を活用し、栄養バランス計算サイトや食生活改善ゲームなど、ゲーム感覚で手軽に改善に取り組めるようにする	16.8	14.5	19.0	16.1	16.0	18.3	21.1	15.7	15.4	20.0	14.4
6 若い世代に影響のある人(芸能人等)から食育推進を呼びかける	24.6	26.0	23.4	27.5	24.9	21.6	22.5	29.4	29.7	26.3	18.0
7 食育推進に関する魅力的なキャラクターやマスコットを考案し、携帯ストラップ等として身に付けることで、日常的な食育の意識付けを図る	4.3	4.3	4.4	5.4	4.4	3.3	7.0	2.0	5.5	1.3	5.8
8 その他	5.4	6.8	4.0	5.4	7.2	3.3	8.5	2.0	8.8	3.8	5.0
9 わからない	1.2	1.3	1.2	1.3	0.6	2.0	1.4	0.0	1.1	3.8	0.7
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問13 家族や友人と食事を楽しんだり、命をいただくことへの感謝の念を深めるなど、食を通じて豊かな人間性を養うことが大切です。

あなたは、「食を通じて豊かな心を育む」ために、次のどの取組が特に効果的と考えますか。

(回答は3つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	483	235	248	149	181	153	71	102	91	80	139
1 学校等で教員や栄養職員が食の大切さを啓発する	32.7	34.0	31.5	35.6	31.5	31.4	38.0	25.5	28.6	30.0	39.6
2 生産者や食文化関係者が学校等に出かけ、食の大切さを啓発する	29.4	31.1	27.8	32.2	25.4	31.4	25.4	32.4	35.2	26.3	27.3
3 学校等での農林漁業体験活動や料理実習の機会を増やす	45.5	45.5	45.6	43.0	47.0	46.4	47.9	55.9	47.3	45.0	36.0
4 生産者の顔が見える地場産物を給食に取り入れる取組を増やす	23.2	18.3	27.8	18.8	26.5	23.5	16.9	24.5	18.7	22.5	28.8
5 イベント・シンポジウムなどで生産者と消費者の交流を図る	13.9	16.2	11.7	16.1	12.7	13.1	15.5	9.8	11.0	7.5	21.6
6 身近な地域での農林漁業体験や食品工場見学の機会を増やす	38.5	37.4	39.5	38.9	43.6	32.0	31.0	45.1	40.7	32.5	39.6
7 身近な地域での地場産物を活用した料理講習会などの機会を増やす	12.6	10.6	14.5	12.8	13.8	11.1	11.3	9.8	16.5	12.5	12.9
8 スーパーなどが地場産物を生産者情報とともに取り扱う	20.1	20.0	20.2	22.1	21.0	17.0	28.2	18.6	9.9	26.3	20.1
9 農産物直売所や直売コーナーを増やす	22.6	21.7	23.4	20.8	20.4	26.8	22.5	26.5	23.1	18.8	21.6
10 毎月19日の「おうちでごはんの日」の普及啓発の充実を図る	18.4	15.3	21.4	19.5	18.2	17.6	21.1	11.8	16.5	18.8	23.0
11 その他	5.2	5.1	5.2	4.0	5.0	6.5	2.8	2.9	11.0	5.0	4.3
12 わからない	1.7	2.1	1.2	1.3	1.7	2.0	1.4	2.9	1.1	2.5	0.7
無回答	0.6	0.9	0.4	0.7	0.6	0.7	0.0	0.0	0.0	2.5	0.7

問14 本県は、愛知万博やC O P 10の開催などを通じ、環境への意識が比較的高いと考えられますが、食べ物についても、生産と消費の両面から、環境負荷の軽減を図る必要があります。

あなたは、「食を通じて環境に優しい暮らしを築く」ために、次のどの取組が特に効果的と考えますか。(回答は2つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	483	235	248	149	181	153	71	102	91	80	139
1 無駄な買いだめを防ぐため、家族構成や買い物の頻度に応じた食品の必要量の目安などを情報提供する	26.9	28.9	25.0	20.1	29.8	30.1	35.2	19.6	24.2	26.3	30.2
2 食べ残しや食品廃棄を減らすための調理や保存の工夫を情報提供する	48.9	49.4	48.4	57.0	43.6	47.1	57.7	49.0	41.8	52.5	46.8
3 食生活における環境への負荷を、CO ₂ 排出量などの指標で「見える化」して、具体的な軽減に取り組めるようにする	23.4	25.1	21.8	22.8	25.4	21.6	9.9	21.6	26.4	21.3	30.9
4 輸送コストの少ない地場産物を地元で購入したり、飲食店で選択できる機会を増やす	34.2	31.9	36.3	34.2	35.9	32.0	25.4	37.3	33.0	35.0	36.7
5 輸送コストの少ない地場産物を地元の学校給食や病院等でできるだけ利用する	32.3	24.3	39.9	31.5	32.6	32.7	31.0	39.2	39.6	30.0	24.5
6 農林水産業において、環境負荷の軽減や資源循環の推進に取り組む	3.1	3.0	3.2	4.0	2.2	3.3	2.8	4.9	3.3	0.0	3.6
7 食品関連事業において、食品廃棄物の発生抑制、容器・包装の減量化や食品リサイクルに取り組む	18.4	19.6	17.3	18.8	16.6	20.3	19.7	15.7	16.5	18.8	20.9
8 その他	1.0	1.3	0.8	0.7	2.2	0.0	1.4	0.0	2.2	1.3	0.7
9 わからない	0.8	1.7	0.0	0.7	0.6	1.3	1.4	1.0	0.0	2.5	0.0
無回答	0.6	0.4	0.8	1.3	0.0	0.7	0.0	1.0	0.0	2.5	0.0

平成22年度第2回県政モニターアンケート報告書

「これからの食育推進」
平成22年10月発行
愛知県知事政策局広報広聴課
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話(052)954-6169(ダイヤルイン)

この冊子は、再生紙を使用しています。

